

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 哲学科

課題：哲学への関心および思考力・表現力を問う試問

時間：60分

\*\*\*\*\*

メルロー＝ポンティが「事象そのものへ」（または「事物そのものへ」という現象学の原則について語る以下のテキストを落ちついて読み、下の問いに答えよ。

[...] 記述する(décrire)ことが問題であって、説明したり(expliquer)分析したり(analyser)することは問題ではない。フッサールが創成期の現象学にあたえた、<記述的心理学>であれとか、<事物そのものへ>帰れとかというあの最初の指令は、まず何よりも科学の否認であった。私とは、私の身体とか私の<心的現象>(psychisme)とかを決定するさまざまな因果関係の結果または交錯ではない。私は自分のことを世界の一部だとか、生物学・心理学・社会学の単なる対象だとかとは考えるわけにはゆかないし、自分を科学の領域の内側に閉じこめてしまうわけにもゆかない。私が世界について知っている一切のことは、たとえそれが科学によって知られたものであっても、まず私の視界から、つまり世界経験(expérience du monde)から出発して私はそれを知るのであって、この世界経験がなければ、科学の使う諸記号もすっかり意味を喪失してしまうであろう。科学の全領域は生きられた世界のうえに構成されているものであるから、もしもわれわれが科学自体を厳密に考えて、その意味と有効範囲とを正確に評価しようと思うならば、われわれはまず何よりもこの世界経験を呼び覚まねばならないのであって、科学とはこの世界経験の二次的な表現でしかないのである。科学は知覚された世界と同一の存在意義をもっていないし、また今後もけっしてつこととはないであろう。その理由は簡単であって、科学は知覚された世界についての一つの規定または説明でしかないからだ。私とは一個の<生物>ではないし、それどころか一人の<人間>または<一つの意識>でさえもないのであって、動物学とか社会解剖論とか帰納心理学とかがこれらの自然的ないしは歴史的所産に認めている諸性格も、すべて私には属していないのである。むしろ、私とは絶対的な源泉であって、私の実存は私の経歴からも私の物理的・社会的環境からも由来したのではなく、逆に私の実存の方がそうしたものの方にむかって行き、それらを支えるのである。なぜなら、私こそがそうした遺産〔経歴・環境〕を<私にとって存在する>ようにさせ(したがってまた、存在するという言葉が私にとってもち得る唯一の意味で、<存在する>ようにさせ)、それをわが身に引き受けることを選ぶからであるし、あるいはまた、私こそがあの地平線を私にとって存在するようさせるからであって、私からあの地平線までの距離があたりの地平線そのものに属する一つの特性ではない以上、もしもその距離に目を走らせる私というものがそこに居なかったならば、その距離も消滅してしまうことであろう。科学的な見方によれば、私は世界の一契機とい

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 哲学科

うことになるけれども、こんな見方は、いつも幼稚で欺瞞的である。なぜなら、こうした見方はもう一つの別の見方を、つまり、それをつうじてそもそも世界が私のまわりに配列され、私にたいして存在しはじめるようになる<意識の見方>を、それとはっきり言表しないままにこっそりと言外に含ませているからである。事物そのものへとたち帰るとは、認識がいつもそれについて語っているあの認識以前の世界へとたち帰ることであって、一切の科学的規定は、この世界にたいしては抽象的・記号的・従属的でしかなく、それはあたかも、森とか草原とか川とかがどういうものであるかをわれわれにはじめて教えてくれた〔具体的な〕風景にたいして、地理学がそうであるのとおなじことである。

M. メルロー=ポンティ著、竹内芳郎、小木貞孝訳『知覚の現象学』 みすず書房、1967. 序文

- (1) 論者が主題化している哲学的問題を 300～400 字でまとめよ。解答用紙 1 枚を用いる。
- (2) (1)で提示された主張をよく検討したうえで、自身の考えを 600～800 字で述べよ。解答用紙 2 枚を用いる。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 国文学科

課題：国文学・国語学・漢文学を学ぶための読解力・表現力・  
思考力に関する小論文

時間：90分

\*\*\*\*\*

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

また、男、いささか人に、言われ騒がることありけり。そのこと、いとものはかなきそらごとを、①あためける人の、作り出でて、言へるなりけり。さりければ、かう心憂きこと、思ひ慰めがてら、②心もやらむと思ひて、津の国の方へぞ行きける。しのびて、知る人のもとに、「かうてなむまかる。憂きことなど、慰みやする」といへりければ、

③世の憂きを思ひながすの涙ならば我さへともに行くべきものとある返し、

憂きことよいかで聞かじと祓へつつ違へながすの涙ぞいざかして、いにけり。

行きつきて、長洲の浜にいでて、網引かせなど、遊びけるに、うらうらと、春なりければ、海いとのだかになりて、夕暮になるまに、いつの間にか思ひけむ、憂かりし京のみ恋しくなりゆきければ、思ひながめつつ、心のうちに言はれける、

はるぼると見ゆる海辺をながむれば涙ぞ袖の潮と満ちけるとぞながめくらしける。

さて、その朝に、さなむありしと、文を書きて、京の、かのまかりまうしせし人のもとに、言ひたりける。女、

④なぎさなる袖まで潮は満ち来とも葦火たく屋しあれば干ぬらむなどなむ、言ひおこせたりける。さりければ、⑤久しくも長居で、帰り来にけり。（『平中物語』）

問一 傍線部①「あためける人」とは、どのような人のことか。前後の文脈から考えて答えよ。

問二 傍線部②「心もやらむと思ひて」とは、どのように思ったということか。説明せよ。

問三 傍線部③の和歌を現代語訳せよ。

問四 傍線部④の和歌は、何を言おうとしたものか。説明せよ。

問五 傍線部⑤「久しくも長居で、帰り来にけり。」とあるがなぜか。説明せよ。



入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 国文学科

三 小論文

次の文章は芥川龍之介「あの頃の自分の事」（一九一九）の一節である。これに対して文学研究の意義を擁護するとすれば、どのようなことを主張するか。自身の考えを六〇〇字から八〇〇字で述べよ。

「一体大学の純文学科などとい（注）うものは、頗（すこぶ）怪（あや）しげな代物だよ。ああやって、国漢英仏独の文学科があるけれども、あれは皆何をやっているんだと思う？ 実は何をやっているか、僕にもはっきりとはわからないんだ。成程（なるほど）研究しているものは、各国の文学に違いなからう。そうしてその文学なるものは、まあ芸術の一部門とか何とか云えるにや違（ちが）いない。しかしその文学を研究する学問だね、あれは一体学問だろうか。（或（ある）は独立した学問だろうかと云っても好（よ）いが）もし学問とすれば、——むずかしく云えば、Wissenschaft（注）として成立するのに必要な条件をえるとすればだね。そうすれば美学と同じものになっちまうじゃないか。いや、美学ばかりじゃない。文学史なんぞは、始（はじめ）から史学と同じものだろうと思うんだ。そりゃ成程今純文学科でやっている講義にや、美学や史学と縁（ゆかり）のないものだって、沢山ある。が、その沢山あるものは、義理にも学問だとは思われないじゃないか。あれはまあよく云えば先生の感想を述べたもので、悪く云えば出たらめだからね。だから僕は大学の純文学科なんぞは、廃止しちまった方がほんとうだと思うんだ。文学概論や何かは美学と一しよにする。文学史は史学へ片づけちゃう。そうしてあとに残った講義は、要するに出たらめだから、大学外へ駆逐（くわく）しちゃうんだ。出たらめだからと云って悪（わる）ければ、余りに高尚で、大学のような学問の研究を目的にする所には、不釣合（たしか）だと云っても好（よ）い。これは確（たしか）に目下の急務（きふ）だよ。さもないと同じ出たらめでも、新聞や雑誌へ出た評論より、大学でやる講義の方が、上等のような誤解（ごげん）を天下（てんか）に与（あた）え易（やす）いからね。それも実は新聞や雑誌へ出る方は、世間（よ）を相手にしているんだが、大学でやる方は学生

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 国文学科

だけを相手にしているんだから、それだけ馬脚が露れずにすんでいるんだろう。その安全なる出たらめが、一層箔をつけているのは、どう考えたって不公平だ。実際僕なんぞは無責任に、図書館の本を読もう位くわいな了見で、大学にはいつているんだから好いが、真面目に研究心でも起したら、一体どうすれば文学の研究になるんだか、途方にくれちまうのに違ちがいがない。それや市河三喜「注」さんのやうに言語学的に英文学を研究するんなら、立派に徹底していると思うんだ。けれどもそうすると、シェイクスピア「注」だろうが、ミルトンだろうが、詩でも芝居でもなくなつて、唯の英語の行列だからね。それじゃ僕はやる気もないし、やつたつて到底ものにはなりそうもないだろう。勿論出たもつらんらめて満足していりゃ好いが、それなら御苦労にも大学へはいらずとも事だ。又また美学なり史学なりの立ち場から、研究しようと云うんなら、外の科へ籍を置いた方がどの位気が利きいているかわからない。こう考えて来ると、純文学科のレエ「注」ゾン・デエトルは、まあ精々便宜的位な所だね。が、いくら便宜でも、有害の方が多くっちゃ、勿論なたいのに劣なつていと云うもんだ。劣なつている以上は、廃止した方が正当だよ。——何、あれは中学の教師を養成する為ために必要なだ？ 僕は皮肉を云っているんじゃない。これでも大真面目な議論なんだ。中学の教師を養成するんなら、ちゃんと高等師範「注」と云うものがある。高等師範を廃止しろなんと云うのは、それこそ冠履顛倒だ。その理屈で行つても廃止さるべきものは大学の純文学科の方で、高等師範は一日も早くあれを合併してしま「注」うが好い。」

その頃の或日、古本屋ばかり並んでいる神田通りを歩きながら、自分は成瀬「注」をつかまえて、こんな議論をふつかけた事がある。

○純文学科：ここでは各国文学を専攻する学科一般を指し、いわゆる大衆文学との対比の意味は含まない。

○Wissenschaft：学問、科学。

○美学：自然や芸術における美的な感性的認識や、芸術の創造・享受などについて研究する学問。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 国文学科

- 市河三喜：英語学者（一八八六―一九七〇）。文科大学英吉利語学英吉利文学第二講座担当の助教授。一九一六年に欧米留学から帰朝。英語学研究所の草分け。
- レエゾン・デエトル：存在にとつての理性的根拠。存在理由。
- 高等師範：旧制で、中学校・高等女学校・師範学校の男子教員を養成した国立学校。
- 冠履顛倒：かんりてんとう。地位、価値などの上下の順序が乱れること。また、そのさま。
- 成瀬：成瀬正一（一八九二―一九三六）。フランス文学者。九州帝国大学法文学部教授。一高で芥川と同級になった。第三・第四次『新思潮』同人。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 ドイツ文学科

課題：小論文（与えられた日本語テキストをふまえて、  
自らの考えを論理的に展開・表現できるかをはかる）

時間：90分

\*\*\*\*\*

以下の文章の内容を踏まえて、「言葉」についてあなたの考えを六〇〇字〜八〇〇字にまとめて述べなさい。

世界には、傑作といわれる詩や劇や小説が沢山ある。しかし、これは傑作だからぜひ読んでおきたまえ、と人にいわれたものを読んでみたけれど、ぜんぜん面白くなかったという経験をする人は、よほどそこには尋常ならざる智慧の結晶があり、すばらしい表現があり、それを読めば今まで知らなかった世界がわがものとなり、自分が一段と成長したような実感を味わえるだろう、というようなことを考えながら意気こんでとびついてみると、これがどうも勝手がちがって、面白くない。そこで、とびつくのも早ければ投げ捨てるのも早く、さっさと離れてしまうことになる。そうなるのも無理はないと思われる事情があって、それはひとつには期待が強すぎるのだ。往々にして人は古典の中に性急に何らかの結晶化した智慧や教訓を求めにゆく傾向があって、現実にはそんなものは滅多にないから、失望する結果になる。古典を読むためには、むしろことさらに時間が必要だし、その作品の生れ出た時代環境に関する知識も必要で、つまり何度も繰返して徐々に深入りしてゆくほかないのが古典というものである。

それというのも、古典として多くの人々に長い歳月仰がれてきた書物は、決してどぎつく人目を惹くような名文句に満ちているわけではなく、むしろそこで使われている言葉は、あたりまえの言葉が多いのである。ふだん使わないような珍らしい言葉をふんだんに使って書かれた千古不滅の傑作などというものは、まず全くないといっている。傑作というもののすばらしさは、一語一語とつてみると突に普通の言葉で書かれている点にあるとさえ言えるだろう。これは傑作だから読んでみなさい、と推奨されて読んでみたが一向につまらなかつた、というようなことが生じるのも、一見退屈で平凡な古典というものの通性だからである。そのとき自分の心がそれに対して素直に入っていないようなときは、そこに書かれていることは全くありふれたこととしか思われぬ。そういうものが古典というものであるらしい。

結局こういう問題は、古典とよばれるような作品の言葉というものが、表面的にはごくさやかで当りまえなものに連りであるために生じる問題だといえよう。そのささやかなものの背後に巨きなものが見えてくるまでは、古典作品などというものは、言ってみれば屑同然である。しかしこちらの心がその世界にしだいに入りこんでいけるようになると、それは屑ではなくて、星屑になる。

今、言葉を大切にしようとする多くの人が言う。言葉を愛しましょう、言葉を守りましょうと多くの人が言う。その場合、根本の問題は、その大事な素晴らしい言葉というのは、実はそのへんにごろごろ転がっているあたりまえの日常の言葉なんだということに対する徹した認識があるかないかということだろう。そのへんに転がっている言葉以外に、素晴らしい言葉なるものはないんだということに気がついてくると、私たちの口をついて出てくる一語一語の大切さが、しんからわかってくるということにもなる。どこか別の場所に、万人が一せいに認めるような、誰が見ても素晴らしいという特別な言葉があって、それを崇め奉っているのが言葉を愛することであり、言葉を大事にすることであるならば、こんな簡単な話はない。よく、「詩を書くかと思っても、言葉が貧弱で……」と言う人がいる。私はつねづねそういうことがありうるものかどうか疑わしく思っている。自分以外のどこかに「語彙」の宝庫があるかのように聞こえるからだ。(一)

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 ドイツ文学科

日常用いているありふれた言葉が、その組合せ方や、発せられる時と場合によって、とつぜん  
衰い力をもった言葉に変貌する。そこにこそ、「言葉の力」の変幻ただならぬあらわれがあり、  
そこにこそ言葉というものをを用いることの不思議さ、恐ろしささえあるということだ。なぜそう  
いうことが生じるのだろうか。結局のところ、事柄は次の一点に帰着するだろう。つまり、われ  
われが使っている言葉は氷山の一角だということである。氷山の海面下に沈んでいる部分はなに  
か。それは、その言葉を発した人の心にほかならず、またその心が、同じく言葉の海面下の部分  
で伝わり合う他人の心にほかならない。私たちが用いている言葉は、そういう深部をほんのちよ  
つぱりのぞかせる窓のようなものであって、私たちはそれをのぞきこみながら相手の奥まで理解  
しようとたえず務めているのである。現代の作品を読む場合でも、自分が非常に感動したある作  
品を、他人が、なんだこれは、つまらない、と言いつけるのは、その人には、たまたま言葉の氷  
山の下側の部分の面白さが感じとれないからである。

（つづ）  
二百年近く以前のドイツの詩人ノヴァーリスが——この人は二十代で夭折したが——書き遺し  
た本に『断章』がある。その中には、自然科学や哲学や魔術その他、百科全書的な分類のもとで  
の思索の断片がおびただしく連ねられているが、そのなかに私をびっくりさせた言葉がある。  
「見えるものは見えないものにさわっている。聞こえるものは聞こえないものにさわっている。  
それならば、考えられるものは考えられないものにさわっているはずだ」。これは詩人の直観が  
とらえた大変に深い洞察をあらわしている言葉である。つまりわれわれが考えることのできるも  
のの世界は、限られていてささやかである。しかし、その考えられるものが考えられないものに  
じかにさわっているということは、言いかえれば、有限なるもの、ささやかなものがじかに無限  
なるものにさわっているということである。いかにも詩人の直観的な表現だが、ある神秘的な拡が  
りを秘めている。

哲学者がこれを読めば、そこに哲学的瞑想への貴重なきっかけが得られるかもしれないし、ま  
たたとえば画家がこういう考えに打たれたなら、ひよっとして一生の転期になるような美術観の  
変化というものが生じるかもしれない。見えるものにさわっているという見えないものを、どう  
やって画面に描くか。音楽家にとっても、聴こえるものにさわっているという聴こえないものを、  
どうやって音楽の世界のものにするか。すべて、難問である。しかし、創造的な刺激を秘めた難  
問である。そして、ここであらためて気づいて驚かざるを得ないのは、ノヴァーリスがこの奥行  
きのある思想を語るのに、まことにささやかな言葉しか用いていないということである。彼はあ  
たりまえの言葉を使って簡潔に書いている。しかしそこで語られている思想は、豊かな展開の可  
能性を秘めている。

このように見てくると、私たちがしばしば用いて語るコミュニケーションという言葉について  
も、若干ふれておきたくなる。私は、日常生活においてはもちろん、文章の中でも、よほど必要  
にせまられた場合でないと「コミュニケーション」という英語を用いて語りたくないという、や  
や偏見の態度を持っている人間である。思うに、人の心と心のふれ合いということ語るため  
には、コミュニケーションという外来語はあまり役に立たない。また、コミュニケーションとい  
う言葉を用いて論じられる領域では、大前提として、人の意思は伝わらないより伝わるほうがよ  
い、しかもより早く、広く伝わる方がよいという善意の考え方があると思われるが、私は人間とい  
うものにもう少し別の暗闇があることを大切に思っているので、コミュニケーションとい

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 ドイツ文学科

うピカピカした言葉になじめない。コミュニケーションは訳せば「伝達」とか「通信」という意味だが、人間の気持というものはそんなに簡単に伝わるものではないという、われわれが体験的に知っている事実、なかなか大切な問題を示しているのではないだろうか。最も相手に伝えたい気持は、最も言葉ににくい微妙な複合体なので、大事なことほど簡単に伝わりにくいものだということが一般に言える。さらにこれを押して言えば、そんなに簡単に人に気持を伝えようとするほうがよいとさえ言えるのではないか。誤解の余地が常にあることの方が、人間であるという条件に対しては忠実な生き方だという気がする。そこから生じる悲しみや憤りを含めて、そういう気がする。

ある思いを簡単に伝えるということは、能率という観点からすれば無条件によしとされることであろうが、人間は能率のみによって生きるわけではない。能率の奴隷として生きることが人間の幸福であるわけではない。人と人との間をつなぐ最も重要な通路に言葉というものがあって、それが「コミュニケーション」をも生むものだが、言葉にはよくわからない部分があつていいのだ、というのが私の考え方である。言葉の通路には薄くはがりがあちらこちらにある方がいいのだ。なぜなら、人間というものは、そんなに薄くはならないと思つていいからである。もちろん私は、コミュニケーションの理論やその広範な応用について頭から反対しているわけではない。ただ、人間は「コミュニケーション」を拒否することにおいて人間そのものである場合もある、という事実に関心を寄せずにはいられないだけである。

ある人間、ある事象に対してかたくなに拒絶的な態度をとることによって、かえって鮮烈に考えや気持を伝えることができることもある。そういう点から眺めると、人間の心には、無数の扉があつて、ある扉はたえず開かれたり閉じたりしているのに、一生に一度か二度しか開かない開かずの扉もまたあるという風に思われてならない。その開かずの扉を開くか開かないかということは、その人にとっては大事件なのである。その開かずの扉が何らかのきっかけで開くときに生じる他者との全く新しい関係、それこそが、かけがえのない「コミュニケーション」の姿のように思われる。それは、ある心と別の心との間に、とつぜん新しい橋がかかることにほかならない。それが人を幸福にするかしないかは一概に言えない問題だが、少なくともその瞬間、人は自身自身について、あるいは相手について、新しい発見をする。暗い部分に光がさしこむ。つまり、ノヴァーリスの言葉にもどって言えば、「見えるもの」にさわっている「見えないもの」が見えてくる。私たちは日常おびたしい「コミュニケーション」の網目の中で生きながら、心の底ではたえずそういう瞬間、この「もう一つのコミュニケーション」を渴き求めているのではないだろうか。

結局、言葉というものの大切さは、それが人間のこういう思いに最も深く関わっているものであるという点にある。言葉が、そのものとして絶対的に大事だということではない。もちろん、言葉は人間の大事な持物だが、それは言葉というものが、なぜかわからないけれども、人間のなかに思想や感情を呼び起こす力を持っているものだからであつて、一語一語を物神崇拜的にあがめてみても、言葉の命にふれることはできない。

出典 大岡 信『ことばの力』（花神社 一九七八年 十七〜二十五頁）「一部改変」

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 フランス文学科

課題：課題図書に関する小論文

時間：90分

\*\*\*\*\*

下の二つの問いに、それぞれ 800 字程度で答えなさい。ただし 2 の答えには新しい解答用紙を使用すること。

1. プロスペール・メリメ『カルメン』（工藤庸子訳、光文社文庫）の中で、ホセがカルメンを殺す前にかける以下の言葉についてあなたはどのように考えますか。

「おれの一生を台なしにしたのはおまえなんだ。おまえのために、おれは泥棒になり、人殺しもやった。カルメン！ 私のカルメン！ あんたの命を助けさせてくれ、あんたといっしょに私の身も救えるようにしてくれ」

2. 小説『カルメン』の中に見られる、異なる文化・言語・民族について述べてください。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 文学部 新聞学科

3. 以下の下線部のひらがなを漢字に、漢字はひらがなに書きかえなさい。

1. 運転免許をこうしんする [ ]
2. 提案に賛成した人はかいむだった [ ]
3. 新事業へのふせきを打つ [ ]
4. 総理大臣がしょしんひょうめい演説を行った [ ]
5. 資金集めにほんそうする [ ]
6. 月へのゆうじんたんさを計画する [ ]
7. 防災意識の向上を図るためけいはつ活動を行う [ ]
8. 島には人が住んでいたこんせきがある [ ]
9. 業界からの撤退をよぎなくされる [ ]
10. ドラマの時代こうしょうを行う [ ]
  
11. AI を搭載した製品 [ ]
12. 窮状を訴える声が届く [ ]
13. 都会の喧噪から離れる [ ]
14. 洒脱な作風 [ ]
15. 課題に真摯に取り組む [ ]
16. 安否の確認を迅速に行う [ ]
17. 復調の兆しがみえる [ ]
18. 欧州における極右勢力の台頭 [ ]
19. 業務を委嘱する [ ]
20. 戦争で焦土と化した領土 [ ]

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 教育学科

課題：教育に関する小論文

時間：90分

\*\*\*\*\*

課題文を読んで、以下の問いに答えなさい。

教育の世界においても AI と DX はすっかり日常用語となったものの、まず、この二つの言葉の意味と、両者の関係について確認しておこう。いうまでもなく AI とは Artificial Intelligence（人工知能）である。2000 年代に入って始まった現在の人工知能ブームは三度目と言われているが、過去二度のブームと異なり、大量のデータを用いることで、AI 自身が知識を獲得する機械学習、その延長でディープ・ラーニング（深層学習）が実用化された点に特徴がある。画像認識、音声認識、言語解析、数値予測、ロボティクスなどの点で飛躍的に進歩し、これまで人間にしかできないと思われてきた事柄が、場合によっては人間以上に確実にできるようになったがために、2045 年には AI が人間の知能を凌駕するというシンギュラリティに到達するといった話に、肯定論と否定論が飛び交う状況がある。

DX とは Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）であり、デジタル技術とデータの利用が浸透することにより、社会生活の在り方が根本的に、それも人間にとってより良い方向へと変容することを意味する言葉である。単にアナログな情報をデジタル形式に変換することにとどまらず、企業経営、消費行動、社会施策、文化など社会のさまざまな側面での変容が生じるとする。この DX は推進されるべきものとされているが、それは DX によりわれわれの生活はより快適になると考えられているからである。

AI の効果的な利用によって DX は推進されるという。こうして構築される新たな日本社会が Society 5.0 である。この Society 5.0 とは、2016 年の第五期科学技術基本計画において提唱された概念であり、「知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服され」、「IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服」した社会であり、また、「社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会」だという（内閣府 2016）。

教育の世界では、AI による DX の推進という近年の動向以前に、1990 年代初頭にまでさかのぼることのできる、初等・中等教育を中心として進められてきた教育の情報化という流れがある。当初は、学校に PC を導入することが狙いで進められてきた教育の情報化であるが、2000 年前後からのインターネットの社会生活への普及により、ネットワーク環境の整備が課題となった。その延長に教育の世界においても AI を利用し教育の DX を図ろうとする動向があり、それは藤川（2021）によれば、教育情報化の第Ⅲ期とする 2010 年頃より始まったとき

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 教育学科

れている。ただ、教育における AI と DX が明確に教育政策の主題となったのは、やはり 2016 年の第五期科学技術基本計画であり、それを受けて文部科学省が各種の政策を打ち立てたことからということができる。

このように教育の世界において AI や DX が課題となるのは、ビジネスの世界と比較して遅い。というのは、教育は、教育を提供する側とそれを受けて学習をする側のそれぞれの人間のダイレクトなインタラクションによって成立しており、そのインタラクションの成果の測定には時間がかかるという特性をもつ。新たなモノやサービスを提供するには、まず、その提供が可能な人間の育成が必要であり、その目的で育成された人によるモノやサービスの提供の質の評価は、提供された側の人間のその後の成長をまたねばならないという構図が存在するのである。

また、教育の世界はビジネスとは異なり、「公」教育という範疇で一定の規制のもとに存立している。そのため、AI と DX といった新規事項を進めるにあたっては、どうしても政府の承認が必要となる。とりわけ、初等中等教育においては、政府の規制内での教育という枠を超えることは困難であり、政府が推進策を取らないなかでは進めにくい。したがって、新規事項で政府が承認したものは、逆に、政策主導として推進されることになる。AI と DX もまさにその範疇にある。

出典：吉田文（2022）「教育と AI」石井英真・仁平典宏・濱中純子・青木栄一・丸山英樹・下司晶編『教育学年報 13』pp.49-51 より一部改変

【問 1】課題文を 400 字程度で要約しなさい。

【問 2】課題文の内容を踏まえて、教育の世界における AI の導入と DX の推進について、あなたの考えを 400 字程度で述べなさい。

以 上

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

課題：課題文に関する論述試験

時間：90分

\*\*\*\*\*

【一】次の文章を読んで、あとの問一から問四に答えなさい。

①

これまでの研究によって、体験される時間の長さに影響を及ぼす要因には複数あることが知られている。ただし、それらの要因は、まだ完全にリストアップされているわけではない。今後の研究によって、さらに重要な要因が発見される可能性が残されている。ここでは、これまでに見出された要因のうち、特に効果の大きいものについて紹介する。

まず挙げなくてはならない要因は、実際に経過した物理的な時間の長さだ。実際に経過した時間が長ければ、他の要因が一定なら、より長い時間として体験される。当然のことだろう。

ただし、その他の要因によって、物理的時間がより長くても、感じられる時間はより短くなることもある。このような要因のうちの主なものとして、身体の代謝、心的活性度、時間経過への注意、他の知覚様相など（松田文子ら『心理的時間』、1996）を挙げることができる。

こうした要因は、何か単独の原理に基づいて感じられる時間の長さを変化させているわけではなく、それぞれの要因が固有の原理に基づいて別々に感じられる時間に影響を及ぼしている

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

と考えられている。複数の要因が同じように実際よりも長い時間を感じさせるような状態にある場合、それぞれの要因が単独でもつ効果よりもさらに長い時間と感ぜさせるような相乗効果があるのだろうか。また、特定の要因が実際よりも長い時間と感ぜさせるような状態にあり、他の要因が実際よりも短い時間と感ぜさせるような状態にある場合、感ぜられる時間の長さはより効果の大きな要因のみで決まってしまうのか、あるいは、効果の減算のようなことが起るのだろうか。複数の要因によって感ぜられる時間がどのように決定されているのかという問題に関しては、まだほとんど検討されていない。まだそれぞれの要因が単独で時間評価に及ぼす効果が他の要因の効果と切り離して検討されるのにとどまっているのが現状である。では、それぞれの要因と時間評価との関係を見ていこう。

（中略）

感ぜられる時間と物理的時間の進み方の違いは、心的時計、または内的時計 (inner clock) と実際の時計 (物理的時計) の時間の進み方の違いとして、考えることができる (図 5-1)。物理的時計は、第 1 章でみてきたように、一定の速度で進むものとして作られている。それに対して、心的時計は様々な要因によって進み方を変える。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

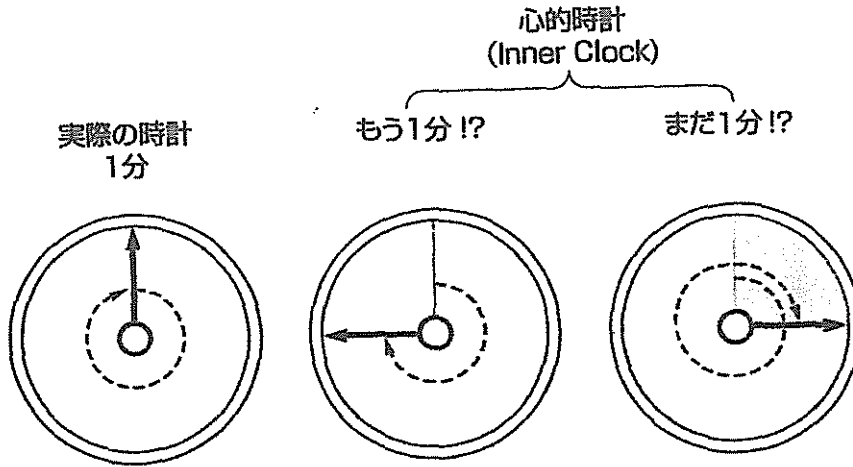


図5-1 実際の時計、心的時計の進み方と時間の長さの感じ方

たとえば、物理的時計で1分間経ったのに、心的時計はゆっくりと進んだため、45秒しか経っていなかったとする。このとき、1分間経ったと聞かされると、「もう1分なの!？」と驚く。ところが、心の時計が1分15秒経っていたとすると、物理的時計では1分が表示されていたとなると、「まだ1分なの!？」と驚くことになる。

この心的時計の進み方は、身体的および心的な活性化に対応していると考えられる。つまり、身体や心が活性化しているときや代謝が激しいときには、心的時計が速く進み、場合によっては物理的時計よりも速くなる。他方、代謝が落ちているときは、心的時計がゆっくり進む。

身体的代謝によって心的時計の進み方が変わることには、様々な要因で時間の長さの感じ方が変わること

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

関連している。たとえば、年齢や1日の時間帯（起床してからの時間）や感情状態によって感じられる時間の長さが異なることには、この心身の活性度が影響を及ぼしているものと考えられている。

本書の冒頭で述べたように、年齢に関しては、年を取るほど時間が経つのが速く感じられるという傾向が知られている。これには様々な要因が寄与しているが、そのうちの 하나가、加齢に伴う身体的代謝の低下である（その他の要因については後述）。

身体的代謝が落ちると、それに伴って心的時計の進み方も遅くなる（年を取るにつれ、時計を動かしている動力源のゼンマイがゆるくなつていくような状態を考えるといいかもしれない）。そのため、時計の刻む1分、1時間、1日、1年は、心的時計よりも速く進む。実感としては、1分、1時間、1日、1年経つのはまだ先と感じられるため、時間が速く進んだように感じられるのだ。年齢が異なれば、感じられる時間の長さは変化するが、同じ年齢の人であれば皆同じように時間を感じるわけではない。また、同じ人であっても、1日のうちで時間の感じ方は変化する。たとえば、1分間を評定させたり、産出法（特定の時間の長さを被験者に主観的に測定させる方法）によって産出させたりすると、朝方は心的時計がゆっくり進行し、午後に向けて徐々に速くなることが知られている。第3章でもみたように、サーカディアンリズムからも1日の活動パタ

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

ンは影響を受けている。

実は、身体的代謝も1日のうちで変動する。朝、7時ごろ起床したとする。起床後すぐの時間帯の代謝は低下している。やがて時間が経過するに従って代謝は激しくなり、午後2時ごろにピークを迎え、そしてまた徐々に低下し、睡眠中も低下している。

このような身体の代謝のリズムと、それぞれの時間帯に実施された時間評価の傾向は、おおよそ対応している。たとえば、起床後すぐの朝の時間帯には心的時計はゆっくりと進む。心的時計の進む速さは午後にピークに達し、以後は次第にゆっくり進むようになる。

動物種によって主観的時間が異なるのではないか、という考え方（本川達雄、1992）も、同じような根拠に基づいている。身体的代謝のペースは動物種によって大きく異なる。人間の身体的代謝は、ネズミよりもゆるやかだが、ゾウよりは盛んである。このことから、ネズミは、人間やゾウよりも心的時計が速く進んでいるのではないか（したがって、時間がゆっくり流れているように感じているのではないか）という考え方である（ネズミの感じている時間が人間よりも長いのかを直接的に解明した研究は、まだないようである）。

一般的に、身体的代謝が激しい小動物は、1秒あたりにできる動作の数が、人間より多いのは確かである。このことから、身体的代謝の激しい小動物は人間よりも時間の流れをゆっくり

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

感じていると考えることは、合理的といえるだろう。

身体的代謝と時間の感じ方が対応しているということから、時間評価の傾向を毎日チェックすることで身体の健康状態を管理するという手法も提案されている。

たとえば、毎日、だいたい同じ時間帯に主観的な1分を産出法などで測定する。なかなか正確な評価は難しいと思われるが、同一人物であれば、一定のバラツキをもってほしい同じような値になることが期待できる。この際、普段の評定値よりも長めの評定値（つまり、心的時計がゆっくり進んだことを示唆する）が得られたときには、身体の調子が落ちているのを疑うことができるだろう。逆に、普段よりも短めの評定値が得られたときは、身体的代謝が普段より活発であることが示唆されているものと考えられる。ただし、異常な発汗や悪寒の傾向があるときは、発熱などの可能性もチェックすべきだろう。身体的代謝が落ちているときは、あまりスケジュールを入れすぎないほうがよいかもしれない（自己の身体状態と合わせた「時間との付き合い方」に関しては第7章で説明する）。

発熱しているときは、普段より身体的代謝が激しい。そのため、熱が出たときには普段と比べると時間がゆっくり進むように感じられる。風邪などで熱がある場合、ベッドに入ってもなかなか寝つけず、そろそろ夜が明けてしまうのではないかと思っって時計を見たらベッドに入っ

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

てからまだ1時間程度しか経っていなかった、などということも起こり得る。

（中略）

感情の状態によっても、時間の長さは異なって感じられる。たとえば、Watts & Sharrockの研究では、クモ恐怖症の人に、クモと一緒に空間の中で過ごしてもらった際に感じられる時間の長さを調べる実験を行なった。この実験では、クモ恐怖症の人は、クモに対して恐怖を感じない人と比べるとクモとともに過ごす時間をより長く感じるが見出された。死の恐怖も時間を過大に評価させ得ることが知られている。

交通事故が起きた際に、そのときの目の前の出来事がまるでスローモーションのように見えたと報告するドライバーがしばしばいる。こうした現象は、事故の際の実際の時間の感じ方を反映しているのか、あるいは記憶における特性を反映しているのかはよく分からない。ただ、事故のときのように極度の緊張を感じる際には、心的時間のほうが物理的時間よりも速く進行する（したがって、目の前の出来事はスローモーションのように見える）ことを示唆する研究はある。

この研究では、バンジージャンプで真っさかさまに落下中の人に、手首に装着した高速で文字列を提示する液晶ディスプレイを観察させた。その結果、普段であれば文字が見えないほど

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

の速さで素早く文字列を提示しても、落下中の観察者には文字が見えたことが判明したのである。この研究は、極度の緊張状態にあるときには血中のアドレナリン濃度が高くなること、この現象の基礎にあることを示唆している。

おそらくこれらのことと関係しているが、カフェインのような興奮作用のある物質の摂取には経過した時間を過大評価させる効果があり、逆に、鎮静作用のある薬物の摂取には、経過した時間を過小評価させる効果がある。

（中略）

時間経過に注意が向くほど、同じ時間がより長く感じられることも知られている。退屈な会議に出席していたとする。その会議が早く終わらないかと時間の経過が気になって何度も何度も時計に注意が向く場合などは、時間がなかなか経たないような印象を受ける。

他方、楽しく時間を過ごしているときは、あまり時計のことなど気にならないだろう。気がついたらもう帰らなければならぬ時間だ、というケースがしばしば起こる。また、試験のときなど、問題を解くのに集中していると、あっという間に時間が経ったような印象を受けた経験をもつ人も多いと思われる。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

この現象が、どのような基礎的メカニズムのうえに成り立つのかは、まだ特定されていない。しかし、本章の冒頭でも述べたように、時間経過に注意が向けられるほど感じられる時間が長くなるという傾向は、身体の代謝や感情の状態が感じられる時間に及ぼす効果とは異なる原理に基づくと考えられる。

時間経過への注意は、身体の代謝や感情の状態とは直接的には連動していない。それぞれ独自に変動し得るのだ。

時間経過に注意が向けられる回数が多いほど時間が長く感じられるという現象に関しては、時間の経過に注意が向けられるほど、時間経過が多くの部分に分節化され、その分節化された時間帯の数が多いほど時間を長く感じるとする仮説もある。時間の経過に注意を向ける回数に対応して、心的時計の目盛りの数が増えるのに、1目盛りあたりの針の進む速さはいつも同じであるため、時間の進行がゆっくり感じられるのかもしれない（図5-2）。

この特性からすれば、時間の経過を気にしながら待つという行為は、時間がなかなか経たないと感じることにつながる。ここにも、大人の時間はなぜ短いのか、という問題を解くカギがありそうだ。つまり、子供と大人との時間の感じ方の違いに関して、子供のほうが待ち遠しい行事（あるいは時間が速く経過してほしい事柄）が多いこと、それに対して、大人では日常の多く

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

時間経過に頻繁に注意が向く場合



時間経過にあまり注意が向かない場合



図5-2 時間経過への注意の頻度と時間の長さの感じ方

の出来事がルーチンワークとなっており、待ち遠しいことも子供ほど多くないことが関与している可能性もある。

(中略)

時間知覚以外の知覚様相における知覚量が、感じられる時間の長さに影響を及ぼすことが知られている。

たとえば、より大きな空間で時間評価を行なったほうが、小さな空間での時間評価よりも長くなる傾向がある。また、より大きな音が鳴っている環境での時間評価は、小さな音が鳴っている環境での時間評価よりも長くなる傾向がある。

大事なのは物理的な大きさではなく、感じられる大きさらしい。なぜなら、大きさに関する幾何学的

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

錯視を用いた研究によって、物理的な大きさは同じでも、錯覚によってより大きな図形が見えた場合ほど、時間が長く感じられるということが示されているからだ（Ono & Kawahara, 2007）。

映像の運動が時間評価に影響を及ぼすことも知られている。たとえば、自然画像からなる動画像のスローモーション再生中に数百ミリ秒間提示された視覚刺激の時間は、通常速度で再生中に提示された視覚刺激の時間より短く知覚される（Eagleman, 2004）。一方、早回し再生中に提示された刺激の時間は、より長く知覚される（西村好古, 2009; Tayama, Nakamura, Aiba, 1987）。

時間以外の知覚様相が時間評価に影響を及ぼすという傾向は、特に子供に顕著である。また、同じ大きさの空間でも、子供のほうが大人よりも大きく判断することが知られている（戸沼幸市, 1978）。自分の通っていた小学校を大人になって訪れた際に、校庭がずいぶん小さく感じられたという経験はないだろうか。同じ空間でも子供のほうが広く判断するということは、さらに子供の時間評価を大人より長めにする傾向を強めるものと考えられる。

ただし、子供のもつ時間概念は、様々なところで大人のもつ時間概念と異なっていることが知られている。

松田文子氏は、学齢期以前の子供においては、速いものほど時間がかかるという逆説的な認

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

知がなされていることを示した（本来は速いものほど時間がかからないはず）。同じ距離を移動する際には「速度」と「移動に必要となる時間」は反比例の関係になるはずだが、学齢期以前の子どもは、速度と移動に必要となる時間とが比例関係になるものと感じているのである。

（中略）

同じ長さの時間であってもその間により多くの刺激が提示されるほど、長い時間と感じられる。また、物理的には同じ数の要素からなる刺激であっても、その要素のうちいくつかをまとまりのあるものとして知覚した場合は、それぞれの要素を独立したものと知覚した場合よりも時間が短く感じられる。

たとえば、相互に無関連な映像を次々と見せられた場合と、同じ映像の中に何らかの脈絡（ストーリー）が見出された場合とでは、後者のほうが時間が短く感じられる。また、ただ単語を読み上げた場合よりは同じ単語数からなる短い童話を読んだほうが、時間が短く感じられる。知覚された出来事の数が増えるほど感じられる時間が長くなるという効果についても、大人よりも子供において顕著であることが知られている（松田、2004）。また、単語の読み上げにかかった時間を評定させる課題では、全体では同じ文字数でも、単語の数が少ない場合（つ

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

まり一つ一つの単語が長い場合)のほうが、時間が短く感じられるという傾向も、特に子供において顕著である。これは、刺激に対する視覚や聴覚におけるまとまりが、時間の長さについての感じ方に影響を及ぼしていること、こうした効果は大人よりも子供において著しいことを示唆している。

同じ時間の長さであってもイベントの数が多いほど時間が長く感じられるという傾向が、大人よりも子供において顕著であることは、子供と大人の時間の感じ方の違いに関係していると思われる。生活の中での特別なイベントは、大人よりも子供のほうが多いだろうし、それは生活の時間を細かく(つまりより多くの分節に)区分することになる。

同じように、様々なイベントを体験した場合も、おそらくは子供のほうが大人より多くの時間的な分節を行なうことが容易に想像できる。

たとえば食事というイベントを考えてみよう。多くの大人にとって毎日の通常の食事は栄養の摂取のための単独の出来事ではないのだろうか。ところが、子供は毎日の食事であつてもその間にいろんな出来事がある。米粒の形を観察したり、皿の上のスパゲッティで形を作って遊んだり、嫌いなグリーンピースを他の物から選り分けたり、いろんな出来事が起こっている。誤ってコップの牛乳や料理の盛られた皿をひっくり返してしまつたら、その片付けの

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

ためにさらに多くの出来事が生じてしまう。

同じ数の出来事があっても、その数が多いほど時間が長く感じられるという傾向が、大人よりも子供において顕著だとすれば、子供は大人よりもさらに長く時間を感じるようになるだろう。

（中略）

計算式を解いている最中は、時間が短く感じられる。その傾向は、問題が難しいほど顕著になる。同様の現象は、図形のグループの中からターゲット図形を選び出す課題においても認められている。

認知的課題の難易度が時間評価に影響を及ぼすことは、車を運転する際に適正に行なわなければならぬ判断にも関わりがあることが指摘されている。

まっすぐな道を走行するよりも、右折のほうが困難である。この難易度の差が時間評価に影響を与えるのである。すなわち、まっすぐな道を走る際にかかる時間よりも、道を曲がる際の時間は短く評価される傾向がある（島村千樹ら、1991）。この右折のときに安全な時間の見積もりを誤ることは、右折および左折時の事故の原因になり得るともいわれる。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

動作のペースも、時間評価に影響を及ぼすことが示唆されている。

たとえば、通常よりも速いペースで歩くと、時間を短く評価する。逆に、通常より遅いペースで歩くと、時間を長く評価する。「精神テンポ」（次項）を測定し、それよりもゆっくりとしたペースで作業をした場合にも、同様の傾向があることが報告されている。

（中略）

心地よいと感じるテンポ、間合いは人によって異なる。そのようなテンポに関する個人的特性の一つに精神テンポがある。この精神テンポは、心地よいと感じられるテンポで、机を指で繰り返し叩くような方法（タッピング法と呼ぶ）で測定されることが多い。一回あたりのタッピングは、おおよそ0.4〜0.9秒の範囲に入る人が多いといわれている。

読者も実際に、自分の精神テンポを測ってみるとよい。何度か練習して、心地よく感じられるテンポがだいたい分かったら、10回（実際は何回でもよい）のタッピングに何秒かかったかを測り、それを回数で割れば、自分の精神テンポがどの程度か見当がつくだろう。

個人の精神テンポは、歩くペースや会話の際の間合いの長さなどと正の相関がある。また、長い年月を経てもあまり変わらないこともこの精神テンポの特徴の一つである。精神テンポが

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

どのように獲得されるのかは、まだ解明されていない。ただ、歩くペースに関しては、居住する都市の人口規模と正比例の関係にあることが、多くの研究によって報告されている。このことから、精神テンポはある程度は環境の影響を受けて獲得されている可能性がある。

作業のペースが自分のテンポと異なる場合、心拍数が上昇することが知られている。このことは、自分のテンポと異なるテンポで行動することが、ストレスの原因になることを示すものと思われる。人によって精神テンポが異なることから、皆が同じペースで作業すること、しかもそれが長時間にわたって続くことは、機械にはできても人間には難しい課題だといえる。

（中略）

抑鬱状態、躁状態にある人には、それぞれ独特の時間感覚があることが指摘されている（木村敏、2006）。これは、精神疾患特有の心的状態が、時間感覚の変容と結びついていることを示唆している。

たとえば、木村（2006）によると、鬱の状態にある人の中には、どうしようもない過去、取り返しのつかない過去にさいなまれる人がいる。未来への展望ははっきりせず、過去の負い目がしばしば現在に侵食してくることもあるようである。将来について考えることが無意味に

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

思われ、時間がゆっくりと進んで感じられたりするという。

ただし、時間評価は正確である。それに対し、躁の状態にあるときは、時間がどんどん過ぎていくように感じられることが多いという。

また、統合失調症についても、独特の時間感覚があることが指摘されている。たとえば、実際にはすでに50歳を越えているのに、いつまでも自分が子供だとか、10代だと自覚したりする場合がある。あたかも時間が止まっているように感じられているといってもよいかもしれない。時間評価については、個人差や個体内差が大きいようである。

（中略）

年を取ると感じられる時間の長さが変化すると、古くからいわれている。実際に、加齢が時間評価に影響を及ぼすことは、多くの心理学的研究によって示されている。ただし、加齢の効果を検討した研究においては、実験に用いられた課題や取り扱われる時間の長さの範囲によって、現われ方が異なる傾向が見出されている。

たとえば、数十秒から数時間にかけての時間を対象とした場合、何らかの課題を実行させ、それにかかった時間の長さを口頭で報告させる際、年齢を経た人ほど短い時間を報告する。他

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

方、ターゲットとなる時間の間だけボタンを押させるような産出法では、数十秒から数時間にかけての時間がターゲットとされた場合、高齢者ほどより長い時間が産出される。

この加齢による時間評価への効果は、時間評価の基礎となる心的時計が加齢に従ってゆっくり進むためであると仮定されている。加齢が進むと、神経生理学的過程や心理学的過程における情報処理の効率や処理の速度が低下する。加齢に伴って心的時計の進み方が遅くなるという考え方も、こうした加齢における神経生理学的・心理学的過程における処理の遅れを想定する理論とよく対応している。

他方、数秒から1〜2分程度の比較的短い時間を用いて、口頭で時間評価したり産出を行なわせた研究では、前述とは逆の傾向を見出した例も多い。すなわち、課題中の時間が加齢に従って長くなること、産出法で産出される時間（特にカウントさせた場合）は高齢者ほど短くなることが見出されている。こうした結果については、注意やワーキングメモリー（課題を遂行するのに必要な情報を一時的に保持する記憶過程）の容量が、加齢によって減少することに基づいて生じることが示唆されている。

なお、ある特定の時間の範囲の中ですべきことが多い場合、しかも、それが自分の能力の限界に近いほどのペースで作業をこなさなければならぬ場合は、むしろ時間はあつという間に

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

過ぎるように感じられる。たとえば、年を取ると、身体運動能力が低下して、若いころであれば1日でできたことがこなせなくなる。このことも、加齢に伴い、1年や1カ月といった時間が思いのほか速く過ぎるように感じられる（時間の長さが短く評価される）のに関係するものと推察される。

（中略）

産出法を使った時間評価において、加齢の効果がどのようにみられるのか、実際に調べた例を紹介しよう。以下の実験は、筆者が展示の監修として関わった日本科学未来館での『時間旅行』展（2003年3月～6月）の際に、未来館のスタッフや共同研究者とともに実施したものである。

参加者は展示物の一つである「無響空間」というブース内に靴を脱いで入り、ウレタン状のマットの上に仰臥<sup>ぎやうが</sup>する。実験中、無響空間ブース内は暗室となる。参加者はスタートボタンを押した後、3分（もしくは1分、2分）経つたと感じた時点で、もう一度ボタンを押す。ブースの外壁にタイマーの数字が提示されており、測定後、各参加者は自らの評定値を見ることができ、研究にデータを使用することに同意した参加者は、自分の結果を記録用紙に書き写す。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

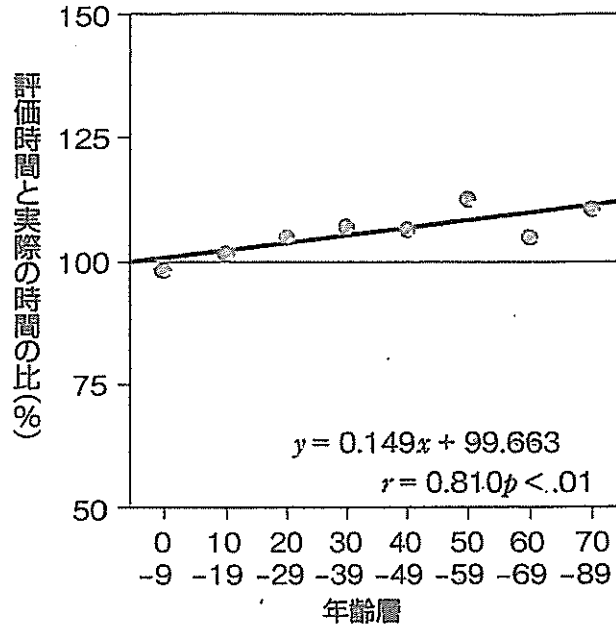


図5-3 年齢と主観的時間評価との対応関係

各参加者が答えたのは、以下の事柄である。

年齢、性別、評定した時間、ターゲットとした時間（基本は3分。その他飽き混んでいるときには1分、2分の場合もあった）、ブースの中でのリラクセス感（リラクセスした／ワクワクした／どちらでもない）、ブースの中の快適感（快適だった／不快だった／どちらでもない）。

結局、評価時間について記録を残してくれた参加者4620人のうち、全項目の記録を残した参加者は3526人だったので、その結果を分析に用いた。年齢は4歳から82歳までにわたっていたが、これだけ幅広い年齢層の参加者を得るのは、なかなかない機会である。

年齢と主観的時間評価との対応関係を大づかみで理解するために、これらの間の相関を検討

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

したところ、統計的に有意な正の相関が認められた。つまり、年齢を経るほど経過時間を過小評価することが確認された（図5-3参照）。

従来から知られている通り、年を取るほど、同じ時間をより短く感じる（時間があつという間に過ぎるように感じる）傾向があった。具体的には、3分間をターゲットと考えた場合、2～4歳年を取るごとに、評定時間が1秒長くなるという結果が出た。

また、リラックスした状態では経過時間が過小評価されることが見出された。心的活性の程度が著しくなるのに伴い、評価する時間が長くなる傾向があるものと考えられる。

この測定では、さらにいくつかの興味深い発見があった。

代表的なものは、性差の存在である。すなわち、10歳未満では、女性のほうが男性よりも評価する時間が短い傾向があった。他方、10代では、逆に男性のほうが女性よりも評価する時間が短い傾向があった。20代、30代、50代では明確な性差は認められなかった。さらに、40代、60代では女性のほうが男性よりも評価する時間が短くなった。ただし、さらに上の年齢層（70代以上）では女性の主観的評価時間は極端に長くなった。

このように、年齢によって知覚における性差の出方が異なるのは、性ホルモンの分泌と対応させて考えられることが多い。たとえば、運動の視覚感度は女性のほうが高いのだが、このよ

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

うな性差が現われるのは第二次性徴期以降の性ホルモン分泌と対応することがいくつかの研究によって示唆されている。このときの結果も、性ホルモンの分泌と時間評定との関係を示唆するものなのかもしれない。

なお、以上はあくまでも3526人の被験者の傾向を集約した結果である。若くても経過時間を過小評価する人もいれば、高齢者で過大評価する人もいた点は述べておいたほうがよいだ

②

ろう。例外的な被験者がいたとしても、全体の傾向としては、加齢に従って時間の長さを過小に判断する傾向が強かったということである。

このように、加齢が時間の長さの感じ方に影響を及ぼすことを示す研究は多い。現象としてはかなり安定したものといえる。ただし、この加齢効果の基礎にあるメカニズムはまだ特定されていない。心的時計や、新陳代謝の変化、注意の存在、ワーキングメモリーの機能低下など、様々な原因が考えられているが、こうした仮定の妥当性の検証や、これらの要因の間の相互作用における特性の理解については、今後の研究に委ねられているのが実情である。

出典 一川誠『大人の時間はなぜ短いのか』 集英社 二〇〇八年 一部改変

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

問一

傍線部①の「体験される時間の長さに影響を及ぼす要因」に関する著者の説明をもとに、左の1から5の括弧に入る言葉として最も適切なものを、アからウの中から1つ選び、そのカタカナを解答欄に記入しなさい。

- 1 同じ単語数からなる童話を読んだ方が、単語をただ読み上げた場合よりも時間が（ ）感じられる。
- 2 時間経過に注意が向くほど同じ時間がより（ ）感じられる。
- 3 同じ長さの時間でもその間により多くの刺激が提示されるほど時間が（ ）感じられる。
- 4 小さな空間での時間評価よりも、大きな空間で時間評価を行なった方が時間を（ ）感じる。
- 5 自動車で、道を曲がる際の時間は、まっすぐな道を走る際にかかる時間よりも（ ）評価される。

ア 長く    イ 短く    ウ 実際と同じように

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

問二

傍線部①の「体験される時間の長さに影響を及ぼす要因」に関する著者の説明をもとに、左の1から5の括弧に入る言葉として最も適切なものを、アからウの中から1つ選び、そのカタカナを解答欄に記入しなさい。

- 1 発熱したときは、普段よりも時間が（ ）進むように感じられる。
- 2 朝方は心的時計が（ ）進行する。
- 3 極度の緊張を感じると、心的時間の方が物理的時間よりも（ ）進行する。
- 4 鬱状態の人は時間が（ ）進むように感じられる。
- 5 心が活性化しているときは、心的時間が（ ）進む。

ア はやく    イ ゆっくり    ウ 実際と同じように

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

問三 傍線部①の「体験される時間の長さに影響を及ぼす要因」に関して、同じ時間の長さであっても、子供と

大人ではどのような違いがあると筆者は述べているのか。60字以内で答えなさい。

問四 傍線部②の「例外的な被験者がいた」という筆者の指摘は、どのような事実に基づいているか。120字

以内で答えなさい。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

【二】 次の文章を読んで、あとの問一から問四に答えなさい。

日本全体の人口減少や地域人口の減少についても「人口が減ると何が問題なのか？」という当然の疑問が浮かぶ。とりわけ、世界人口については、1965～1970年頃、人口増加のピーク時には2・05%という高い人口成長率となり「人口爆発(population explosion)」という言葉が生まれた。マルサスが指摘したように人口は指数関数的に増加するため、2・00%を超す成長率の下では、人口は約35年(1世代)ごとに倍増する。事実、世界人口はなお増加しており、当時の40億人から現在の80億人を超え100億に向かいつつある。このことが地球の生態環境にとって脅威となっていることは周知の事実であり、生態環境が崩壊する前に、この人口増加をコントロールする必要があることは間違いない。

しかし、ポスト人口転換期に入り、やがて人口成長率がマイナス2・00%近くまで低下すると、今度は人口爆発を逆回しにしたような急激な人口減少が起こることはあまり理解されていない。すでに第2章で述べたように増加する場合はダブリングタイム(70を人口成長率の%の数字で割った値。単位は年)、減少する場合は半減期(ハーフライフ)と呼ばれ、こちらは人口学より物理学や化学でよく知られている。放射性元素の半減期は短い方が環境への影響が早く弱まるので危険度は低くなるが(例えばセシウム134の半減期は約2年、セシウム137では約30年だが、プルトニウム239では2万4千年と長い)、人口学の方では、人口が消滅するまでの時間が短くなるので、半減期は短いほど危険度が高い。人口減少が加速し年率マイナス2・00%で減り始めると、人口は約35年(1世代)ごとに半減し、「人口爆縮(population implosion)」が起きる。このような急激な人口減少が世界中で起きるとすれば、地球の生態環境にどのような影響があるかについてはあまり知られていない(人類滅亡後についてはTVシリーズまであるようだが)、しかし、すでに100億人に近づきつつある人類社会が地球の生態系にとって脅威となっていると

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

すれば、その地球の生態系はすでに100億人近い人類を含む状態で、現在、それなりに均衡し機能していると思われる。①人類が急激に減少すれば、その均衡も崩れると考えるべきだろう。もつとも自然生態系のバランスが崩れたとしても別の均衡が生まれるだけのことであり、自然環境の方からみれば被害と呼ぶような危険性はないのかも知れない。ただ別の均衡への移行が、我々人類にとつても良い結果をもたらすとは限らず、人口爆発の場合とは異なる形で自然破壊が起きる可能性は高い。（中略）

人口規模が縮小し、人口密度が低下するにつれ、自然環境との関係を再編することが必要となる。すでに過疎地域や都市周辺部あるいは大都市内でも、人口の希薄化にともない、生態学的なバランスが崩れ、野生動物の異常繁殖や人間の生活圏への侵入が起きている。

人口減少により生態環境からの一方的な撤退がなされた場合、生態環境がヒトとの接触がなかった頃のバランスを回復する可能性は極めて低い。というのも先進国の森林の大部分はすでに原生林ではないし、ヒトとの接触がなかった時代はるか昔のことである。今日では貴重なものとなった里山の自然もヒトとの共生関係から生まれたものであり、熊や鹿、狐や狸、猪や猿などの大型野生動物の個体数も、ヒトとの接触やヒトの森林利用との関係で決まっている。むしろ人の生活圏が脱落することにより、自然環境のバランスは崩れ急速に荒廃が進む。また荒廃した自然環境では気候変動や異常気象に対する脆弱性が一層高まると予想される。少子高齢・人口減少による林業・農業・牧畜生産の急速な衰退、生産地の粗放化による生態環境の崩壊が懸念される。（中略）

さらに、より長期にグローバルなレベルで自然環境の悪化を考えると、イスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリが『サピエンス全史——文明の構造と人類の幸福』の中で主張しているように、人類が小麦や米などの特定の穀物種や、牛・豚・鶏などの家畜動物のみを異常繁殖

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

殖させたことにより、生物多様性を阻害し、地球上の自然生態環境そのものを破壊してきたという問題がある。

人口減少が、この問題の解決に直接貢献するかといえ、答えはノーであり、世界人口が現在の80億人から40億人に減つたとしても、現在の食料生産方式のままでは生物多様性の減少を止めることはできない。また人口減少が進めば、世界の食料問題が解決に向かうかといえ、やはり答えはノーである。その理由は、世界人口が人口爆発にも耐え、これまで増加してきたのは、人口増加より早いスピードで食料生産を増加してきたからであり、それを可能としたのは、特定の殺物種や牛・豚・鶏などの家畜動物の生産方式を巨大化したからである。人口減少が進めば生産効率は低下するので、むしろ食料事情は悪化すると考えなければならぬ。すでに開発途上国の一部で起きているように食料事情が悪化すれば原始的な焼畑農業への退行や野生生物の乱獲などが進み、生物多様性はさらに低下する。また経済的に豊かにならないと人口は減少しないが、経済的に豊かになれば、1人あたりの消費水準が上がり、食料の消費量は増えるので、全体としては、人口減少の効果は相殺されると考えてよい。

国連が主導して進められている「持続可能な開発目標」SDGs (Sustainable Development Goals)では、二つ目の目標(飢餓をゼロに)で食料安全保障や栄養改善、持続可能な農業の促進などで食料問題が扱われている(佐藤・松浦 2023)が、食料生産による生物多様性の減少という点について、環境負荷を大きく低下させる効果は期待できない。同様にフードロス(生産されたものの最終消費に至らず廃棄される食料)撲滅や、カロリー過多の食習慣を止めさせる健康キャンペーン、肉食をタブーとする菜食主義やさらに先鋭化したヴィーガン(菜食に加え、動物由来の服や生活用品も全て拒否するなど、文化的、社会的には重要かつ貴重な取り組みだと思うが、自然環境をベースとする食料生産である限り、人類による食料生産が生物多様性に影響することは

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

避けられない。ちなみに穀物生産については、ローマクラブ報告『成長の限界』（1972）で使われたWorld3というモデルでは、耕作可能な農耕地の寿命は6千年と設定されていたが、20年後の『限界を超えて』（1992）のWorld3/91では千年に短縮されていて上壤の悪化（風化・侵食・上壤流出）はその後も加速していると思われる。いずれアメリカやウクライナの穀倉地帯の農耕地が使えなくなる日がくることは避けられないと考えるべきだろう。

したがって、時間は掛かるが、この問題を根本的に解決するには、最終的に食料生産を自然生態系から分離するしかない。具体的には、すでに開発が進められ一部で商品化され始めているように合成タンパクなどの技術を使い、シンセティック・フード（合成食品）を生産する方向に進化し、その生産設備を自然生態系の食物連鎖（フードチェーン）から空間的に隔離することになる。このような生産設備がどれくらいの大きさになるかは定かではないが必要面積が農耕地や牧草地よりはるかに少なくなることは間違いない。大都市周辺部や大都市の内部に設置することも可能だと思う。もっとも、すでに述べたように、このようなことが可能となったとしても、生態環境からの一方的撤退がなされた場合、生態環境が元のバランスを回復する可能性は低いので、人類抜きの生態環境をどう管理するのかという問題にも並行して取り組む必要がある。（中略）

地球温暖化については、2015年の「国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）」で合意された「パリ協定」が翌年から発効し、全体目標として世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度より低く保ち1.5度に抑える努力をすることになった。そのため世界各国はCO<sub>2</sub>を含む温室効果ガス（Greenhouse Gas, GHG）の排出量の削減目標を掲げている。日本は2021年4月の「気候変動サミット」で当時の菅総理大臣が2030年までにはGHG排出量を2013年度水準から46%削減すると宣言したといわれている。

現在、進行している地球温暖化が産業革命以来進んできた化石燃料の消費により排出されるCO<sub>2</sub>を増加させ、その大気中の濃度を高めた温室効果の結果として、地球の年間平均気温を

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

上昇させているという仮説（相関関係はあるが量的因果関係は依然不明）は、今や自明とされている。仮に仮説が正しいとしてもCO<sub>2</sub>を含む温室効果ガスの人為的排出量を削減すれば、その分だけ地球の年間平均気温の上昇が抑えられるとは限らない。地球大気にそのように敏感な可変性があるのなら、コロナで産業活動が大幅に低下した一、二年の効果がすぐに出るはずだが、今のところ確認されていない。しかし、温暖化が続いていることや巨大台風や竜巻、記録的猛暑や寒波など異常気象とされる現象が多発していることは経験的事実である。また、大震災や大津波などの巨大災害も頻発しているとの印象も強い。

③もつとも自然災害の発生確率は、地理的要因や自然環境要因に加え、人口規模や人口密度、年齢構造などの人口学的要因や社会・経済・文化的要因により異なる。かつて、ポルトガルのリスボンで大地震（1755年）が起きた時に、ヴォルテールは神の摂理が世界を支配していることに疑念を示す詩を書いた。これに対しルソーは「リスボンの住民は七階建ての家に住んでいたから災難にあつたのであり、森の中に散在して住んでいたとすれば被害は受けず災厄を免れただろう」と反論したという話がある（ラッセル1970）。ちなみにこの地震はマグニチュードが東日本大震災にほぼ匹敵する巨大地震で、リスボンを中心に5万5千から6万2千人が死亡（うち津波による者1万人）、国家が震災への対応と復興にあつた最初の近代的災害であり、地震学の誕生の契機となり、ヨーロッパ近代の思想・文化の形成に多大な影響をもたらしたといわれている。

このヴォルテール・ルソー論争のように哲学的に考えなくとも、誰も住んでいないところで巨大地震が起きたとすれば、地震発生は報じられても災害とは呼ばないことは容易に理解できる。つまり、自然災害は天変地異の発生自体より、人がどこでどのように住んでいるかの方が問題となる。確かに災害の規模や被害の大きさは天変地異により異なるが、被災者数、死傷者数、行方不明者数、死亡率、建物や家屋の損傷、経済的損害などは、発生地域の人口規模や人

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

口密度、年齢構造（年少者や高齢者が被害に遭いやすい）、性比（一般に男性の方が被害の割合が小さい）、社会経済状況などの影響が大きい。とりわけ、被災地域が社会・経済・文化的な面で弱い立場にある場合は被害が深刻になる。また災害からの復興過程においても人口学的要因や社会・経済・文化的要因の影響が大きい（井上・和田 2021）。人口との関係でいえば、少子高齢・人口減少が進んだ地域ほど、自然災害に対する脆弱性（バルネラビリティ vulnerability）は高く、回復力（レジリエンス resilience）は低い。

自然に帰れのルソー的観点に立てば、自然生態系の中に溶け込むように、人口を配置すべきだということになるが、ルソーに対するヴォルテールの反論は、それなら人はまた昔に戻って四つ足で歩けというのかというものである。この議論は現在においても事の本質をついていると思う。つまり、エコロジストの立場に立てば、最新のテクノロジを活かし自然生態系への負荷を最小限に抑え、自給自足型の地域コミュニティに小規模な人口が分散居住することが理想となる。確かに、そのようにすれば、一度に数万人規模の死者を出すような大災害は起こり得ない。しかし、そのように低い人口密度で分散居住できたのは狩猟採集社会の話であり、仮に技術的に実現可能であったとしても地域コミュニティの人口密度×地球上の居住可能面積を掛け合わせた総人口しか生存できないので、総人口がそこまで減少するのを待つしかない。また自給自足型の地域コミュニティがどのようなテクノロジを用いるとしても、そのテクノロジのパフォーマンスを支えるには巨大な生産力が必要となる。たとえばソーラー・エネルギーや風力発電には、高性能の太陽電池パネルやウインドミルが必要となるが、そのような装置までも自給自足することは物理的に不可能であり、効率的な大量生産によるコストダウンがなければ利用できるようにはならない。高度のテクノロジの利用は断念し、ローテクのみで支えられる人口規模まで縮小するという手もあるが、すでに近代的な生活基盤（インフラ）に適應してしまった現代のホモ・サピエンスが、先史時代以前の狩猟採集社会に適應できるとは思えない。また、狩猟採集でも楽に生きられる生態環境はすでにほとんど残っていない。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

したがって、地球温暖化による気候変動への対応については、むしろ、自然災害のリスクが少ない地域に、人口を分散・集約する一方、防災能力を高めた大規模コミュニティの世界的なネットワークを築く方が理にかなっていると思われる。今日の大都市圏は、基本的に農耕生産や工業生産に適した海岸線や河川に近い地域に立地しており、このため津波や洪水、火山活動や地震の被害を受けやすいという問題を抱えている。エジプトはナイルの賜たまはらという言葉に象徴されるように、そのような自然環境が、逆にそれに耐えうる文明を育んできたともいえる。しかし、前述のように食料生産自体を自然生態系から分離してしまえば、海岸線や河川から離れた、地盤のしっかりした内陸部に高度なテクノロジーを活かした大都市圏を築いてゆくことは可能である。さらに、自然災害より気候変動への対応としては、変動する気候帯に合わせて、大都市地域を移動させ、その気候帯にあった居住・生活環境、そして社会・経済・文化を発展させるべきではないかと思う。そのような大規模コミュニティを、食料生産や工業生産などのユニットを装備し、可能な限り自然環境から分離したものにすれば、人類社会が自然環境に与える影響を最小化することができる。また気候変動のコントロールという点では、地球全体は難しいが、自然環境から分離した人工環境の地域気象なら十分対応できると思われる。

出典 原俊彦『サピエンス減少―縮減する未来の課題を探る』岩波書店二〇二三年  
一部改変

問一 傍線部①「人類が急激に減少すれば、その均衡も崩れる」とあるが、筆者はどのような例を挙げることにより、人口減少後に生態環境が以前のバランスを回復することが難しい理由を説明しているか。150字以内で述べなさい。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 心理学科

問二 傍線部②「世界人口が現在の80億人から40億人に減ったとしても、現在の食料生産方式のままでは生物多様性の減少を止めることはできない」とあるが、どのような食料生産方式にすれば解決の可能性があると筆者は述べているか。100字以内で説明しなさい。

問三 傍線部③「自然災害の発生確率」に影響を与える要因の一つとして筆者は「人口学的要因」を挙げているが、どのような観点において人口学的要因が自然災害の発生に関与していると述べているか。100字以内で説明しなさい。

問四 筆者は、地球温暖化による気候変動への対応としてどのような居住方法が良いと述べているか。筆者がそう考える理由もあわせて、250字以内で述べなさい。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

課題：文章理解力、表現力、思考力についての試問

時間：60分

\*\*\*\*\*

【問】下記は、19 世紀にヨーロッパに誕生した都市について論じた文章である。下記の文章を読み、後の設問に答えなさい。解答は、解答用紙に記入すること。

現代の生活の最も奥深い問題は、圧倒的な社会の力、歴史的な遺産、外的な文化、生活技術などに直面している個人が、自分の存在の自律性と個性をなんとか保存しようという要求からきています。原始人は自分の肉体的な生存のために自然と闘いましたが、現代ではこの闘いは新しい変貌を遂げました。18 世紀には、人間はあらゆる歴史的な束縛、たとえば、国家、宗教、道徳、経済などの分野にあったいろいろな束縛ですが、そうした束縛から自分自身を解放することが要求されました。人間の本性はもともと善良でみんな同じなのだから、それを妨げないで発達させるべきだ、というわけです。19 世紀になると、自由が増えたことに加えて、人間とその仕事の機能的な専門化が要求されました。この専門化のおかげで、ひとりの個人を他の個人と比較することができなくなり、みんながそれぞれ、可能なかぎり、なくてはならない存在となりました。しかし、この専門化のために、おのおの人間はますます他のすべての人間による補完的な活動に直接頼ることになりました。ニーチェは、冷酷無惨な闘いのなかで個人は完全に発達するのだ、と考えています。社会主義者は、個人の発達のために、いっさいの競争を抑制すべきだと信じています。それはともかく、これらの立場にはどれも同じ基本的な動機が働いています。それは、人間は社会・技術的機構による平準化と消耗に抵抗している、ということです。現代に特有の生活とその産物のもつ内面的な意味、つまり、いわば文化的カラダのもっている魂を探求するためには——これがこんにち大都市についてわたしに与えられた課題なのですが——、大都市に見られるような構造が、個人の生活内容と個人を越えたところにある生活内容のあいだに立てた方程式を解かなければなりません。つまり、この問題を探求するためには、パーソナリティが外的な力に合わせてどのようにみずからを適応させるのか、という問題に答えなければならないのです。

都会人の個性の心理学的な基礎は、内外からの急速なたえまない刺激の変化から生まれてくる、神経的刺激の強化にあります。人間というのは、いつも区別をしている生き物です。人間の精神は、ある瞬間の印象とその直前の印象との差異によって刺激を受けています。長くつづく印象、たがいにほんのちょっとしかちがわない印象、規則正しい習慣的な変化をしたり規則正しい習慣的な対照を示したりする印象——こうしたすべての印象は、いわば、急速に集まってくるイメージの変化とか、ちょっと見ただけでわかるような鋭い不連続性とか、思いがけない印象の奔流とかにくらべると、あまり意識されません。後者の状態は、大都市が生み出す心理的な状態です。各自が街頭を行き交い、さまざまな経済的・職業的・社会的生活がさまざまなテンポでなされている都市は、心理的生活の感覚的な基礎に関して、小さな町や田舎の生活と深い対照を示しています。大都市は、いつも区別している生き物である人間に、田舎の生活とはちがった量の意識を要求します。田舎では生活のリズムと感覚的な心象は、大都会にくらべてずっとゆっくりと、ずっと習慣的に、ずっと静かに流れています。

このことと結びつけて考えれば、都会人の精神生活の知的な性格は理解できるものになります。——深く感

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

じられた情緒的な関係にもとづく小さな町の生活とまったく逆なわけです。小さな町の生活は、精神のもっとずっと無意識の層に根ざして、破られることのない慣習の安定したリズムのなかで、もっとも確実に成長します。しかし、知性の場所は、精神の、透明な、意識的な、より上の層にあります。つまり知性は、わたしたちの内面的な諸力のうちでいちばん適応力があるのです。知性は、変化に適応し、事象の対照に適応するために、衝撃を受けたり内面的な激変をこうむったりする必要はないのです。もっと保守的な精神だったら、そうした激変をとおしてしか、大都市の出来事のリズムに適応できないでしょう。だから、大都会の人間は——いろんな変種があることはもちろんですが——、彼・彼女を根こぎにしかねない外的環境の驚異的な流れや分裂に対して、自分自身を守るための器官を発達させるのです。都会人は心ではなく頭で反応します。この点で、意識の増大は精神的な特権だと考えられます。こうして、大都市の生活は、都会人の意識の高まりと知性の優越の基礎となるのです。大都市の現象に対する反応は、パーソナリティの深みから遠く離れた、いちばん敏感でない器官に移るのです。

知性はこうして大都市生活の圧倒的な力に対して主観的な生活を保存するものと考えられます。知性は、いろんな方向に枝分かれして行って、数多くの分岐した現象をまとめるものなのです。大都市はつねに貨幣経済の中心でありました。大都市では経済的交換がたくさんあって、集中しているために、交換手段が重要になります。これはわずかな交易しかない小さな町ではありえなかったことです。貨幣経済と知性の優越は本来むすびついています。両方ともヒトやモノに対する即物的な態度を共有しています。そして、この態度にあっては、形式的な公正は、しばしば、無慈悲な思いやりのなさとながっているのです。知性に染まった人間は、あらゆる純粋な個性に無関心です。なぜなら、そうしたものからは、論理的な操作では尽くすことのできない関係や反応が起きてしまうからです。同じように、現象の個性は、金銭的な原理にふさわしいモノではありません。貨幣はすべてに共通のものにのみ関心もちます。貨幣は交換価値を求め、あらゆる質や個性を「いくら？」という問いに還元します。人間のあいだのあらゆる親密で情緒的な関係は、彼ら・彼女らの個性にもとづいていますが、合理的な関係のなかでは、人間はあたかも数であるかのように、それ自体無差別である要素であるかのように扱われます。客観的に計測可能な業績だけが関心の対象です。都会人は、売り手と買い手、家事使用人、そしてしばしば社会的交渉の義務を負う人びとに対してさえ、このような態度で接するのです。こうした知性の形態は、小さな社会の性質と対照的です。小さな社会では、個性がいやでもわかってしまい、必然的にもっと暖かい基調の行動、たんなる奉仕とお返しに差引勘定を超えた行動を生み出します。

小さな集団の経済心理の領域では、原始的な状態のもとでは生産は製品を注文する顧客のためになされるもので、したがって生産者と消費者は知り合いである、ということが重要です。しかし、現代の大都市では、市場向けの生産、つまり生産者の現実の視野に相手の顔がけっして入ってこない、まったく見知らぬ顧客のための生産によって、物が供給されています。この匿名性のために双方の関心は無慈悲な (B) 即物的なものになるのです。双方とも知性的に計算をする経済的な利己主義者なので、義務の (C) 不履行をおそれる必要はありません。なぜなら、人格的關係には何の価値もないからです。貨幣経済は大都市を支配しています。貨幣経済は家内生産と物々交換の最後の残存物にとって代わり、日に日に、顧客注文の仕事量を減らしてきています。即物的な態度と大都市で支配的な貨幣経済との関連はあまりに明白なので、知性主義的な精神が最初にあって貨幣経済を促進したのか、あるいは逆に後者が前者を決定したのか、だれにもわかりません。ただ都市の生活様式が、この相互作用のもっとも (D) 肥沃な土壌であることは確実なのです。この点については、わたしは、イギリスのもっとも有

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

名な憲政史家の意見を参照するにとどめておきましょう。彼によれば、イギリスの歴史の全過程をつうじて、ロンドンはけっしてイギリスの心として作用したのではなく、むしろしばしばイギリスの知性として、またつねに財布として作用したのだそうです。

生活の表面に見られるあまり重要とは思えない特性のなかにも、同じ精神的な流れが特徴的に結びついていきます。現代の精神はますます（ a ）になっています。貨幣経済がもたらした実用生活の計算上の厳密さは、自然科学の理想に対応しています。その理想とは、世界を算数の問題に換え、世界のあらゆる部分を数式を使っておさえてしまうことです。貨幣経済だけが、多くの人びとの日常生活を、秤量や計算、数の決定、質的価値の（ b ）への還元などで満たしてしまいました。貨幣の計算可能性によって、新たな正確さ、同じものところがうものを決める場合の正確さ、同意と不同意の明瞭さなどが生活の要素間の関係に持ち込まれてきました。——ちょうどこの正確さは、外面的には懐中時計の普及によって影響を受けてきたのと同じようなものです。しかし、大都市生活の状態は、この特性の結果であると同時に原因でもあります。典型的な都会人の関係と出来事は、通常、多様で複雑であるので、約束やサービスをする場合に時間が厳守されなければ、構造全体が崩壊してどうしようもない (γ) カオスに (δ) 陥ってしまうでしょう。とくに、分化した関心をもつ多数の人びとの集まりがあって、関係と活動を高度に複雑な有機体に統合しなければならない場合に、時間厳守は必要不可欠です。もし、ベルリンにあるすべての時計が、突然狂って、おかしな動き方をしたとしたら、たとえそれが1時間でも、都市のすべての経済活動と交流が長期にわたって破壊されてしまうでしょう。加えて、距離が離れているといったような、見かけ上たんなる外的な要因も、人を待たせたり約束を破ったりすることになり、たいへんな時間のむだを引き起こすでしょう。（ c ）、すべての活動と相互関係を安定した非人格的な時間割に厳密に組み込まなければ大都市の生活技術は想像できないのです。

< 中略 >

生活形式の厳密さや時間的正確さに見られるような最高度の非人格性をもつ構造に結びついているこの同じ要因が、他方では高度の人格的主観性に影響をおよぼしています。歓楽に飽きた態度ほど、大都会に無条件に保持されてきた精神的現象はおそらくないでしょう。歓楽に飽きた態度は、第一に、急速に変化しつつある、極度に圧縮された神経的刺激の結果として生まれるものです。大都会の知性も、もともとはここから出てきたものです。だから、そもそも知的に生きていない愚かな人間は、ふつう歓楽に飽きたりはしません。際限なく快楽を追い求める生活をしていると飽きてくるのです。なぜかというとなんな生活をしていると、神経は長時間、最強度の反応をかき立てられ、結局ぜんぜん反応しなくなってしまうからです。同様に、神経の変化が急速で矛盾しているために、もっと害の少ない印象でさえこのような激しい反応を強いることになり、神経があちこちでずたずたにされてしまい、神経に残っている最後の力も尽きてしまいます。それでもある人が同じ環境にずっととどまっているなら、神経は新しい力を集める余裕がなくなるのです。こうして、新しい知覚にふさわしいエネルギーでもって反応することができなくなるのです。ここから歓楽に飽きた態度が出てきます。事実それは、静かで変化の少ない環境にいる子どもたちとくらべた場合に、大都会の子どもたちが示す態度なのです。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

大都会の歓楽に飽きた態度の心理的な源泉は、もうひとつの源泉、つまり貨幣経済から流れ出てくる源泉と結びついています。歓楽に飽きた態度の本質は、差別に鈍感になることです。といたしましても対象を知覚していないというわけではなく、モノの意味や多様な価値、したがってモノそれ自体が実質的なものとして経験されないという意味です。歓楽に飽きた人間にとって、モノは等しく平板で灰色を基調としたものに見えます。どの対象も別のものに対してより好ましいなどということはないのです。この気分は、完全に内面化された貨幣経済の忠実な主観的反映です。貨幣は同一のやり方でいっさいの多様なものを等価にしてしまうので、もっともおおるべき平等主義者になります。貨幣にとっていっさいのものの質的な差異は「いくら？」という言葉で表現されます。貨幣は、色もついていないし無差別なので、いっさいの価値の公分母になります。貨幣は、修復できないまでにモノの核心、その個性、その特別の価値、その比較不可能性をえぐってしまいます。すべてのモノは、一定の速さで動いている貨幣の流れのなかでは、等しい比重で浮かびます。すべてのモノは同じ水準にあり、占める場所の大きさだけが異なっているのです。個々の場合にあっては、貨幣等価物によるモノの着色、いや脱色は気がつかないほど微細なものかもしれません。しかし、金持ちと彼・彼女が金で買いあさったモノとの関係、いやことによると現代の公衆の心性がいたるところでモノに付与する全体的な性格のために、モノをもつばら金銭的に評価することがきわめて重要になってきたのです。

貨幣交換の中核である大都市では、もっと小さな場所よりもはるかに印象的に、モノの購買可能性が前面に押し出されます。これこそまさに都市が飽きの態度の見られる純粋な場所でもある理由なのです。都市ではヒトとモノが集中しているので、個人の神経系は最高度に刺激され、頂点に達します。同じ条件付けの要因が量的に強化されるだけで、この到達点は反対のものに転化し、飽きの態度という特別の調節になってあらわれてきます。この現象のなかで、神経は、刺激に対する反応を拒絶することで、大都市生活の内容と形式に適應する最後の可能性を見いだします。あるパーソナリティの自己保存は、客観的世界全体の価値を下落させることによってもたらされますが、この価値の下落は、結局、自分自身のパーソナリティを掘り崩し、同じような無価値の感情にパーソナリティを突き落とすのです。

この存在形式の主体は、まったく自分自身のためにこの存在形式と折り合わなければならないのですが、主体が大都市に直面して自己保存を図ろうとすれば、社会的に消極的な行動を迫られます。都会人のお互いに対するこの心的な態度は、形式的な観点からは、控えめな態度と呼んでよいのではないかと思います。小さな町では、出会う人がほとんどみな顔見知りであり、積極的な関係を結んでいます。それと同じようにして無数の人びととのたえまない外面的な接触にいちいち内面的に反応していたら、その人の内面はばらばらになってしまい、想像できないような精神状態になってしまうでしょう。ひとつにはこうした心理学的な事実から、またひとつには都会生活の不安定な要素に直面した人間が当然もつ不信感から、われわれの示す控えめな態度は必然的なものとなります。この態度の結果、何年間も隣人の顔さえ知らなかった、などということがしばしば起こります。そして小さな町の住民の目に、われわれが冷たくて薄情な人間に映るのは、この控えめな態度のためなのです。

< 中略 >

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

都市は、なによりもまず、最高度に発達した経済的分業の中心地です。都市は、分業の発達によって、パリの14番目役という有償の職業のように、極端な現象を生みだします。14番目役というのは、住居に人に分かるように看板がかかっている、晚餐の時刻に正装をして準備しており、晚餐会の人数が13人になりそうなときに、すぐに呼び出しに応じられるようにしている人のことです。都市は、拡大するにつれて、ますます分業のための決定的な条件を準備します。都市は、規模の大きさのゆえに、いちじるしく多様なサービスを吸収できるような社会圏を準備します。同時に、個人が集中し、顧客をめぐる競争が激しいので、個人は、簡単に他者によって置き換えることができないような機能の専門化を余儀なくされます。

決定的なことは、都市生活が、生活の糧を得るための自然との闘いを、利潤を得るための人間同士の闘いに変化させたことです。ここでは、利潤は自然からではなく、他者によって与えられるのです。専門化は、ここで明らかにした源泉から出てくるばかりではなく、もっと深い源泉からも出てきます。つまり、売り手は顧客につねに新しい独特のニーズを喚起しなければならないということです。尽きることのない収入の源泉を見つけ、容易に置き換えられないような機能を見つけるために、その人のサービスを専門化する必要があるのです。この過程は、公衆のニーズの分化、洗練化、豊富化をうながしますし、これは明らかに、公衆の内部にますます個人的な相違を引き起こすにちがいないのです。

<中略>

必要なのは、大都市はパーソナリティを超えて大きく成長してしまったあらゆる文化の本来の舞台である、と指摘することだけです。大都市では、建物や教育制度、空間を征服する技術の驚異や快適さ、共同生活の構成体、国家の可視的な制度などがあって、そこではパーソナリティがいわばみずからを維持できないような、結晶化され非人格化された精神が圧倒的に満ち溢れています。一方では、生活はパーソナリティにとって際限なく楽です。（ d ）、刺激や関心や、時間や意識の用途があらゆる方面から個人に提供されているからです。それらは個人をあたかも流れのなかにいるかのように運び、個人は自分で泳ぐことなどほとんど必要ないのです。しかしながら、他方では、生活はますますこれらの非人格的な内容と提供物から構成され、純粋に個人的な色彩と比較不能性は置き換えられる傾向にあります。この結果、個人は、自己のもっとも人格的な核を保存するために、個人の独自性と特殊性を際限まで呼び起こさなければなりません。個人は、自分自身にさえ聞き取れるようにするために、人格的な要素を誇張しなければならないのです。客観的文化の肥大化による個人文化の退化は、もっとも極端な個人主義の (c) 伝道者、とりわけニーチェが、大都市に対して激しい嫌悪をいだく理由なのです。しかしこれは、実際のところ、これらの伝道者があれほど情熱的に大都市で愛され、都会人にとって満たされない熱望の予言者・救世主としてたちあらわれている理由でもあるのです。

（出典：ゲオルグ・ジンメル／松本康訳「大都市と精神生活」松本康編『都市社会学セレクション第1巻：近代アーバニズム』日本評論社、2011年。出題のため一部改変。）

[注] \*ニーチェ：ドイツ・プロイセン出身の思想家・哲学者。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会学科

【設問】

解答は横書きとする。行の冒頭に（1）など、設問の番号を記すこと。（設問ごとに改行すること。）

- (1) 下線部 A から E の漢字の読み仮名を書きなさい。
- (2) 下線部アの語句の意味として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①暗黒 ②調和 ③秩序 ④流動性 ⑤無秩序
- (3) 下線部イの語句の意味として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①予言をする人 ②教えを広める人 ③リーダーとなる人  
④影響力が大きい人 ⑤信仰をもつ人
- (4) 空欄 a に入る語句として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①不可逆的 ②不可思議 ③可逆的 ④計算的 ⑤刺激的
- (5) 空欄 b に入る語句として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①サービス ②家内生産 ③非人格性 ④物々交換 ⑤量的価値
- (6) 空欄 c に入る語句として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①だから ②しかし ③そもそも ④それなのに ⑤他方
- (7) 空欄 d に入る語句として、最も適切なものを下記から1つ選び、番号を記しなさい。  
①あとは ②というのは ③しかしながら ④それに加えて  
⑤それなら
- (8) 下記のうち、筆者が大都市や大都市の人々の特徴としてあげていないものはどれか？ あてはまるものを全て選び、番号を記しなさい。  
①刺激 ②自由 ③孤独 ④貨幣経済 ⑤正確さ ⑥移民  
⑦他者との距離 ⑧分業
- (9) 波線下線部 1 に「都会人の精神生活の知的な性格」とある。ここでの「知的な」とは、どのようなことをさしているか？ 本文の内容に即して 15 字以内で答えなさい。
- (10) 現代社会の都市に生じている問題を1つ取り上げ、その問題が、なぜそのように生じているのかについて、あなたの見解を 400 字以内で論じなさい。  
注意(1) 日本の都市、海外の都市、いずれの都市について論じても構わないが、どの国の都市について論じるのかを明記すること。  
注意(2) 何が、どのように「問題」だといえるのかを十分に説明すること。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会福祉学科

課題：社会および社会福祉に関する理解力と思考力を問う試験

時間：90分

\*\*\*\*\*  
次ページの文章を読み、問1から問3について答えなさい。1つの設問につき、1枚の解答用紙を使用し、冒頭に設問番号を付記すること（いずれも字数制限なし）。

問1 ここでは、「対話のテーブルに着くことができない存在」について述べられている。対話のテーブルに着くことができないために生じる問題とはどのようなものがあると考えられるか。

問2 筆者はこのあと、米国における「医療、福祉、ソーシャルワークのようなヘルスケアにアクセスできない人たち」を「脆弱な集団」として論じている。では、日本においては、どのような「脆弱な集団」が存在するだろうか。具体的な例を1つあげ、その理由について説明しなさい。

問3 前問において述べた日本における「脆弱な集団」が対話のテーブルに着けるようにするために必要な方策について、あなたの考えを論じなさい。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 社会福祉学科

ここまで、科学技術の倫理的課題が話し合われる対話のテーブルの情景を考えてきた。こうして見てくると、医療倫理、技術倫理、環境倫理のいずれにおいても、対話のテーブルに着くことができない存在に対する倫理的配慮をどうするかが、最も難しい課題であることが見えてきた。そのような存在は、自分たちの利益を主張する機会が与えられず、存在していることさえ忘れられてしまう可能性がある、きわめて弱い存在と言えるだろう。本章の最後に、こうした存在について考える。

科学技術が、それを身に着けている限りにおいて強くなれる、強者の服だとして、人間の社会には、その恩恵を大いに受けている人たちもいる一方で、まったく受けられていない人たちもいる。倫理的に望ましい科学技術のあり方の一つは、科学技術によってもたらされる利益と不利益が、公平に配分されている状態であろう。

私たちが公平性原則として考えた倫理原則が、少なくとも人間においては完全に成立している状態を想像することができようか。そのためには、まずは科学技術の恩恵が最も行き届いていない人たちを特定する必要がある。

とりわけ、生存そのものに直結するような、医療、福祉、ソーシャルワークのような、ヘルスケアに関わる技術は、飲み水や食糧などの衣食住に関わる最低限の充足と同様に、公平に提供される必要がある。逆に言えば、ヘルスケアにアクセスできない人たちこそ、社会的に最も弱い存在である可能性が高い。

日本は、国際的に見て、こうした側面で比較的恵まれた状況にあった。しかし、近年の急速な高齢化の進行などにより、医療費が増加して、国の財政を圧迫している。それでも、先進工業国の中で相対化して捉えれば、基本的なヘルスケア・サービスを無料で提供し続けている欧州の国々と、低所得層と高齢者のみに公的保険を提供している米国との中間にあるという位置づけは変わっていない。

こうした問題の先行きを考えるためには、公的支援が少ない方の極である米国を見るのがよいだろう。米国には、世界で最も進んだ科学技術の知が集中している。英語という言語が事実上の世界共通語となっており、国際的な競争力を持つ大学や企業が数多くあって、世界中の優秀な人材を集め続けていることなど、科学技術の世界での米国の優位性は、圧倒的である。

その一方で、米国には欧州や日本と比べれば、公的社会サービスを受けていない人たちが驚くほど多くいる。

出典：宮坂道夫（2023）『弱さの倫理学—不完全な存在である私たちについて』医学書院、pp.174-175

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合人間科学部 看護学科

課題：小論文

時間：60分

\*\*\*\*\*  
問：あなた自身の体験を踏まえて、著者の考えに対するあなたの意見を 800 字以内で述べなさい。

他の人と違う人生を生きることを恐れるのは、何かをやり遂げなければならないと考えるからである。しかし、どうなるかはとにもかくにも生き始めてみないとわからない。

道をたずねられたら自分が知っているところであればできるだけ丁寧に教えたいといつも思っているが、目的地まではどれくらいかかるかとたずねられても、道をたずねた人がどれくらいの速さで歩くのかがわからなければ答えようがない。もちろん、自分でも歩き始めなければわからない。他の人が早く行けたとしても自分は時間がかかるかもしれないし、その逆の場合もある。さらに、自分がどこに行こうとしているのかが自分でもわからないこともある。そのような場合は誰にもたずねることはできない。

自分がどんな人生を生きるか、目標が明確にわかっている人はいる。しかし、その目標は必ずしも自分が選んだわけではなく、多くの人が無自覚に選んだものである。自発的に選んだ人生は他の人の生きる人生とは違うので、まわりの人が心配になることは、これまで見てきた通りである。もっとも不測の事態が起こることがあるので、必ず自分の願う人生になるわけではなく、どんな人生も絶対「安全」ということはなく、安全な人生が幸福な人生とは限らないことも見た。

さらに問題は、明確な目標があるとそこに到達するまでの人生が目標達成のための準備期間として「仮のもの」になることである。今の人生を仮のものとするには人生は短い。「本当の」人生を生きられる日が来るという保証もない。

やりたいことを未来ではなく「今」見つけてもいいのではないかと。何かのためではなく、今ここで夢中になれることがあれば、これから先のことを考える必要がなくなる。それがやりたいことである。

やりたいことばかりしていたら何も成し遂げられないのではないかと、どこにも到達しないのではないかと思う人がいるかもしれないが、やりたいことをして振り返ればいつの間にか遠くまで来たというような生き方をしてもいいのではないかと。先のことばかり考えて生きてみても、いつかやりたいと思っていたことができるとは限らない。

そして、何事も達成できなければ不幸になるというのではない。今の人生を未来のために犠牲にするとまではいわないとしても、「今」やりたいことをしないで、準備のただけに費やしているのではなければ。

(出典：岸見一郎、つながらない覚悟、PHP 新書、2023、pp.147-149)

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 法律学科

課題：小論文（800 字）-社会と法に関する設問を含む小論文

時間：60 分

\*\*\*\*\*

いわゆるフィリピン人一家強制退去命令事件（以下、本事件という）に関して、次の【資料1】（本事件の概要）、【資料2】（本事件に対するマスコミの反応）、および【資料3】（本事件に対する論評）を順に読んで、「入管難民法の説明」も参考にしながら、問1および問2に合計で800字以内で答えなさい。

出典：森島昭夫「法とは何か：フィリピン人一家強制退去命令事件を通して」時の法令1832号53頁以下（2009年）【一部抜粋】。資料1、2、3すべて同論稿からの抜粋。

問1 【資料3】の筆者は、【資料2】における本事件に対するマスコミの、具体的にどのような反応から、法に対する日本社会のどのような態度・考え方が読み取れるとしているか。および、同筆者は、本事件に対する法務省や法務大臣の、具体的にどのような対応から、日本の法の執行者のどのような姿勢を読み取ることができるとしているか。それぞれ説明しなさい。

問2 法と、社会の意識との間に食い違いが生じているケースにおいて、法の執行者（国や裁判官）はどのような態度をとればよいか。あなたの考えを、根拠を挙げて説明しなさい。

【資料1】

このフィリピン人一家の夫と妻は、一九九二年と九三年にそれぞれ偽造旅券で日本に入国し、九五年には長女が出生。その後父親は都内の工事会社に職を得て平穩に勤務していたが、一〇年以上たった二〇〇六年七月に母親が入管難民法違反で摘発収容された。そして一二月には、不法滞在として一家に対する退去強制命令が出された。そこで、一家は、弁護士グループ等の支援を得て、強制退去処分に対する取消訴訟を東京地裁に提訴して最高裁まで争ったけれども、最高裁も一家の訴えを認めず、二〇〇八年九月に強制退去処分が確定した。

しかし、その間に、二〇〇七年五月に母親が仮放免されており、翌年四月に日本で生まれ育ち日本語しか分からない長女が中学校に入学すると、中学校の同級生を中心に一家に対する支援の輪が広がり、マスコミも、この一家を取り上げるようになった。一家は二〇〇八年九月の最高裁判決によって強制退去処分が確定した後、改めて入管難民法五〇条により法務大臣に対して在留特別許可を求め、入管もその間の一家の滞在期間を延長した。多数の人々が一家を支援し、二万を超える在

留特別許可を求める嘆願書や署名が集まり、一家が居住する藤市の市議会も一家の在留特別許可を求める意見書を採択している。

これに対して、二〇〇九年二月法務大臣は、日本人と結婚し日本に住んでいる長女の親族（おば）が養育することを前提にして、長女だけに特別在留許可を出したが、偽造旅券で不正入国し摘発されるまで出頭しなかった両親には特別在留許可を与えないことを決定した。

これを受けて東京入管は二〇〇九年九月に入って一家の強制退去の手続きに着手したが、特別在留許可のある子供だけが日本に残って親子が離れ離れになるのか、それとも特別在留許可を得られなかった両親とともに子供は言葉も生活習慣も分からない母国へ行くかなければならないのかということめぐって、新聞・テレビは連日のように大きく報道した。マスコミはこぞって、一家に対する強い同情の念を示しながら、一三歳の中学生の少女が目には涙を浮かべて、「私にとっては、日本は母国。親と離れること、友達と離れることとは同等、だから、どちらも選択できない。これからは勉強を続けるために、家族三人で日本に残りたい」と語る様子をエモーショナルに報道した。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 法律学科

## 【資料2】

二〇〇九年九月一日付朝日新聞の天声人語は、「生木を裂く選択」と題してこの問題を取り上げている。天声人語氏は、国外退去を命ぜられた一家については、「両親は偽造旅券で入国したとはいえ、まじめに働いて職場や地域になじみ、この国に根を下ろしてきた。一三歳の長女は、父母の国に行つたこともなく、日本語しか話せない。両親と離れて暮すには根も幹もまだ弱い、人生のいわば早春である」と述べ、他方で、法務省側については、「いつも一定の基準にものごとを当てはめる、杓子定規しやくしじょうぎという言い方は江戸の昔からあつた。庶民が大岡裁きの政談に喝采したのは、そうした背景もあつただろう。法は法として貴い。だが運用の妙があつてもいい」と言う。そして、「何とか手はないものか。彼女以外にも、同じ境遇で育ち、学ぶ子らが、日本には大勢いる」と結んでいる。

### (中略)

また、九月一三日の日経新聞も「一家の在留に首相の決断を」と題する社説でこの問題を取り上げ、「不法滞在の取締りと例外との兼ね合いは難しいテーマだ。制度改革や運用の改善は今

後の課題だが、今回はまず人道的な立場から一家の在留を許可すべきである。これを認めたらといって、入管行政の根本が揺らぐわけではないだろう。もう時間が無い。ここは政治家の出番である。森英介法相、そして麻生太郎首相は一家が日本に残れるよう決断を下してほしい」と述べている。

## 【資料3】

いずれにしても、この事例から見えてくることは、天声人語氏をはじめとして、日本の社会では法を杓子定規と見ており、間尺に合わない場合には運用の妙で切り抜ける（法の規定を無視して、別のルール、この場合には人道的配慮）のがよいと考えているようだということである。どの新聞論調を見ても、法は法だが、人道的立場から法にやらない例外的な措置があつてしかるべきだというのである。首相の「政治的決断」を求めた日経の社説もある。

### (中略)

他方で、法務大臣あるいは法務省の側では、マスコミの報道が激しくなるにつれて、長女だけの在留を認めたり、一時強制収容した父親を仮放免し、滞在期間の延長を認め、あるいはまた強制退去後の両親の短期再入国を認める方針を示したりするなど、短い期間で対処方針が揺れ動いたように思われる。法第五〇条第四号によって法務大

臣が極めて広い裁量権があるように見えるために、一方で入国管理業務の原則（杓子定規）に縛られながら、他方で、法五〇条の規定上はつきりした見通しがないままに世論の流れに反応せざるをえなかったのかも知れない。ここで指摘しておきたいのは、日本の社会では法というものに対して普段からどこかなじめないものを感じており、法と社会の意識が大きく齟齬そごしてくると、法とは別のルールを選択しようとする傾向がある、ということである。法の制定者や執行者の側でも、法と社会とのずれを認識しており、社会（世間）の動きに合わせてために、場合によっては首尾一貫しない非体系的な法運用が行われることが多く、法（ルール）による統治が貫徹していない。このフィリピン一家の強制退去に関する事例もそのひとつの例として挙げることができよう。

参考「入管難民法の説明」：入管難民法は、外国人であつて、「有効な旅券を所持しない者」は「本邦に入つてはならない」（3項1項）とし（本事件の両親はこの規定に違反している）、この規定に違反して本邦に入つた者に対しては、「本邦からの退去を強制することができる」（24条）としている。他方で、本事件当時の入管難民法 50 条 4 号は、「法務大臣が特別に在留を許可すべき事情があると認めるとき」には、上記規定に違反した者であっても、法務大臣が特別に許可を与えることで、例外的に日本に滞在できると規定している（在留特別許可制度）。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 国際関係法学科

課題：小論文（800 字）-国際関係に関する小論文

時間：60 分

\*\*\*\*\*  
以下の文章を読んで【問題】に答えよ。なお解答に際して、問題番号を明記すること。

イスラエル軍とイスラム組織ハマスによる戦闘が長期化している。双方により繰り返される「物語の綱引き」<sup>①</sup>。その背景には、両者が抱えるトラウマ（心的外傷）の存在が垣間見える。

イスラエルの政府や軍はこれまで一貫して「ハマスは（過激派組織）イスラム国のようなテロ組織」「イスラエルは被害者」と主張してきた。一方ハマスは、「占領者イスラエルに挑む正義の聖戦」「ハマスは人道的な組織」と強調する。

米シンクタンク「ニュー・アメリカ財団」の戦略担当、P・W・シンガー氏は今回の紛争を「ナラティブの綱引き」と呼ぶ。ナラティブとは物語、語りを意味する英語だ。「自分たちが掲げる『正義』の戦いに、参戦を呼びかける」綱引きが続いているという。

綱引きは当初、イスラエルが優勢だった。1200もの市民らを殺害した10月7日のハマスによる襲撃の残忍さがそれを後押しした。だがその10日後に起きたガザ北部の病院での爆発事件後、潮目が変わり始める。

「イスラエルが病院を空爆し約500人が死亡した」。爆発直後、ハマス側がSNSで発信すると世界中のメディアがこれを伝え、中東諸国で「反イスラエルデモ」が拡大した。

イスラエル側は半日かけて衛星写真などを分析し「ガザ側からの誤射だ」と反論したが、機を逸した感は否めない。両者の仲介を目指したバイデン米大統領は、予定していたパレスチナ自治政府を含むアラブ諸国側の指導者らとの会談を中止せざるをえなくなった。

ハマスはこれを機に物語の綱引きを有利に進める。人質として拘束した高齢のユダヤ人女性を手厚く扱い解放する動画を投稿。イスラエルの世論は「ハマスは人質にひどいことをしていない。交渉の余地はあるのでは」と軟化した。

地上戦が本格化するとガザ市民の被害がさらに拡大し、国際社会はイスラエルにより厳しい目を向ける。追い打ちをかけたのがイスラエル兵士がネット交流サービス（SNS）上に投稿した映像だ。

米短文投稿サイトX（ツイッター）に投稿されたその動画では、イスラエル兵士数十人が輪になって歌っている。「我々はガザを征服しに来た……」。別の動画では、ガザで国連が運営する学校の屋上で、イスラエル兵士が国旗を掲げている。兵士がガザ市民のトラックに積まれた食料を燃やしたり、おもちゃ屋の商品を笑いながら壊したりする映像も広く拡散された。

（中略）

紛争心理学が専門でヘブライ大学教授のエラン・ハルペリン氏は「人間は脅威にさらされると、『敵』に対する道徳的なルールを考える余裕がなくなる」と指摘する。イスラエル軍はハマスに急襲を許し、その「弱さ」を痛感させられ、トラウマと屈辱感の中にいるのだという。

私（記者）はエルサレム特派員として2014年夏、イスラエルによる地上侵攻をガザで取材した。避難所となった学校の教室で、女兒が黒板に空爆の様子とパレスチナの旗を描いていた。声をかけると、「毎日怖くて眠れない」と涙をこぼした。戦闘による強いストレスやトラウマを抱えていると思われた。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 国際関係法学科

ガザではハマスが実効支配を開始した07年以降、計5回の大規模戦闘が繰り返されてきた。現在18歳の子どものはるすべて、10歳の子どものは3回を経験している。人口200万人のガザの約半数は18歳未満だ。

英キングストン大学の心理学者らが11～17歳のガザの学童や学生1029人を対象に実施した調査（20年論文発表）によると、その9割が紛争に関わるトラウマを抱え、約5割が心的外傷後ストレス障害（PTSD）と診断された。

ガザで子どもたちの精神医療に関わるハレド・ユーセフ・メラド博士は21年、アラビア語圏のオンラインメディア「ニューアラブ」の取材に、ガザで特に見られるのは「複雑性PTSD」だと述べている。

PTSDのうち、特に逃げるのが困難な心身の危険に繰り返しさらされることで生じるもので、紛争下の人々や難民、捕虜のほか、児童虐待やいじめの被害者などにもみられる。

（中略）

14年夏の戦闘後、イスラエル軍幹部とハマス司令官にそれぞれ取材した。双方がほぼ同じ表現を口にしたので驚いた。

「やつらは暴力という言葉しか持たない。だから力で向かうしかない」

人間は言葉を持つ。だが「敵」は言葉が通用しない、動物以下の存在だから、暴力をもって「正義」を教えるしかないという。

紛争の当事者が「敵」に向ける「非人間化」の目線だ。ただ1990年代のボスニア紛争についての研究（08年発表）によると、紛争当事国の市民に自分たちが「敵」に対してどのような不正行為をしていたかについて目を向けさせると、敵への偏見が和らぎ、共感が高まる傾向が見られたという。

イスラエル、パレスチナ双方の市民は心に深い傷を抱えている。それを刺激する暴力が起きると、復讐の物語が暴走する。一部の指導者が「平和の物語」を掲げても、それを足元から破壊していく。国際社会が双方の不正行為を偏りなく批判し、記録し広く知らせることが、トラウマの連鎖®を内外から抑制する手立ての一つになるのかもしれない。

【問題】以下の二つの問題について（1）（2）合わせて800字以内で記述せよ。

- （1）下線部①にいう「物語の綱引き」とはここではどのように描かれているか。
- （2）下線部②にいう「トラウマの連鎖」を断ち切るにはどうしたらよいか。あなたの意見を述べなさい。

出典：「人を動かすナラティブ：ガザ「正義」の綱引き 不正と偏見、SNS拡散」  
毎日新聞 2023年12月25日東京朝刊3頁 \*一部省略した。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 地球環境法学科

課題：小論文（800 字）-社会（環境問題を含む）と法に関する  
小論文

時間：60 分

\*\*\*\*\*

下記の【新聞記事】を読み、①どのようなことが問題となっているのか、簡単に説明してください。次に、②この問題について自治体の対応が分かれています、自治体としてはどう対応すべきか、どのような具体的な対応が考えられるか、という点について、想定される反対論についても考慮しながら論じてください。なお、専門的な知識を問うものではありません。また、【新聞記事】は次頁にも続いています。

【新聞記事】朝日新聞デジタル版 2024 年 6 月 5 日朝刊東京四域・1 地方 017 ページ <なお、一部加筆、省略している>

園芸用の土、不法投棄やめて 井の頭公園で横行、脱コロナで処分困り？ /東京都

「都会のオアシス」として知られる都立井の頭公園で、いらなくなった園芸用の土が捨てられる行為が相次いでいる。公園側は生態系への影響を懸念し、「不法投棄は犯罪」と警告するが、いたちごっこが続いている。そもそも、ガーデニングなどでつかった土はどうやって処分すればいいのだろうか。

「ほら、ここにも捨てられています」

5 月中旬、「井の頭かんさつ会」のボランティア沼道恵理さん（45）が指さした。公園西園と玉川上水の間にある林の切り株周辺に、地面とは色の違う土がまかれていた。この日だけで10カ所以上が確認でき、なかにはプラスチック製の鉢底ネットや砂利、枯れた植物の根っこもあった。

約43万平方メートルの敷地に井の頭池や約2万本の木々がある井の頭公園。地域に愛される緑の空間で懸念されるのは、捨てられた園芸用土に混ざっていた種から外来種の草花が繁殖することだ。巡回中の警備員が見つけて注意すると、「捨てる場所に困っていた」という声が多いという。「土を自然にかえしている」「よかれと思って」という人もいるかもしれないが、本来育つべき在来植物が観葉植物に覆われてしまうことがある。

土の不法投棄が目立っている要因について、沼道さんはこうも感じている。

「外出制限のあったコロナ禍でガーデニングを始めた人たちが、ひとたび普通の生活に戻ったとたん、もう要らないと捨てているのではないか」

公園を管理する都西部公園緑地事務所は2月、「公園内に園芸用の土を捨てないでください」とする貼り紙を出した。土に限らず、ものを捨てる行為は不法投棄であるとし、担当者は「園芸用の土を園内に捨てる行為は環境への配慮が欠けた行動として苦慮している」と話す。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 法学部 地球環境法学科

■ごみ回収の対象外

では、土はどこに捨てればいいのか。

地元の三鷹市のごみ回収は、土を「収集不可」とする。市ごみ対策課は「土は自然なもので、ごみではないという判断をしており、回収していない」。問い合わせがあると、購入した園芸店で回収していないか問い合わせるよう促したり、有料の回収業者を紹介したりしている。同じく地元の武蔵野市も「市では収集できない」とする。

一方、横浜市のように園芸用土を「燃えないごみ」として収集するところも。品川区や中央区では「資源回収」の一つとして無料で回収している。ホームセンターの「島忠」や「ホームズ」でも、購入者に限って回収を受け付けている。

土の処分を専門にしている業者「ウイステリアガーデン」（世田谷区）によると、回収は植木鉢一つ分から請け負うが、出張費のほか、重さあたりの処分料金がかかる。一戸建てなら庭にまくこともできるが、マンション住まいの人などが処理に困って連絡してくるケースが多いという。

同社の藤井憲一代表（56）は「園芸で使われた土は肥料や殺虫剤が混ざっている場合があり、公園に捨てるべきではない」とした上で、「園芸店や専門業者に頼むなどして、適切に処分してほしい」と呼びかけている。（平山亜理）・・・（以下、略）・・・

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ドイツ語学科

課題：設問を含む小論文

時間：90分

\*\*\*\*\*  
次の文章をよく読んだ上で、設問に答えなさい。

山岸

一口に相互協調性と言っても、そこには大きく二つの種類があるんです。分かりやすい言葉で言うと、ポジティブな協調性とネガティブな協調性ですね。普通、私たちが「相互に協調する」と言う場合、何かの問題について手に手を携え、協力して一緒に物事を解決するというイメージを思い浮かべますよね。

長谷川

問題解決には自分の利益追求はいったん棚上げしていこうというわけですから、独立性や利己主義的な生き方とは対照的なわけですね。

山岸

ええ、社会心理学で従来考えていた相互協調性というのは、まさにそうしたあり方を指していたわけですが、実はそうではないパターンもある。それは何かというと、集団内で利己的な人間だと思われたいよう、波風を起こさないように行動するという相互協調性もあることが分かったんです。

長谷川

なるほど、集団の問題を解決するのではなく、集団内で問題を起こさないようにする。それがネガティブな相互協調というわけですか。でも、それって本当は相互協調でも何でもありませんよね。

山岸

いわゆる「空気を読む」人たちですね。でも、彼らの行動だけを見ていたら、ポジティブな協調性を持っている人たちと見分けがつかないんです。だからこれまでは見過ごされてきた。

長谷川

身近にいる「空気を読む」人たちの行動を思い出してみると、こう言ってはなんですが、たしかに外面はいいですね。

山岸

で、単純に相互協調性だけを比較してみるとアメリカ人も日本人もそう大差はないんですね。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ドイツ語学科

長谷川

---中略--- つまり、日米で違いがあるように見えるのはデフォルト選択の差であって、条件を同じにしたらほぼ行動は同じになる。

山岸

その点では日米では相互協調性の差はないんですよ。しかし、その相互協調性の「質」を調べてみたらはっきりとした差が見つかりました。

つまり、ポジティブな協調性とネガティブな協調性の比率を見ると、日本人のほうはネガティブな協調性を示す人のほうが多い。一方、アメリカ人の場合はポジティブな協調性のほうが多い。

長谷川

つまり、ネガティブとポジティブを合計していたから文化差がないように見えるのだが、実はよく吟味すると文化差があるということですか。結論がさらに引っくり返った。これは重要な指摘ですね。

山岸

ちなみに私たちはネガティブな協調性のことを「びくびく」と呼んでいます。

長谷川

人に嫌われないかどうかを絶えず気にしていて、自分からは行動に出ない。

山岸

そうしたびくびくした態度と、他人と積極的に協調していこうという態度を一緒にしているのかということに今さらながら気がつかされました。

---中略---

で、この研究からさらに分かったのは、独立性もまた一種類ではないということでした。こちらは「ネガティブ・インディペンデンス」と「ポジティブ・インディペンデンス」の二つですね。

長谷川

協調性と同様に独立性にもポジティブとネガティブがある。

山岸

他者からの自立を志向するやり方でも、そこには二通りがある。

つまり、一方のネガティブ・インディペンデンスは「誰も私のことを構わないでくれ」という、他者との関わりに消極的なタイプで、もう一方のポジティブ・インディペンデンスのほう

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ドイツ語学科

は積極的に他者とは関わっていくのだけれども、自己主張をすることに躊躇をしないというタイプですね。

長谷川

付和雷同はしないのがポジティブ・インディペンデンスというわけですね。

山岸

でも、実際にはネガティブ・インディペンデンスはなかなか達成できない。引きこもりの話でも分かるように、人間は社会なくして生命を維持できないのですから当然です。

長谷川

インディペンデントであるため、自分の独立を守るためには他者の協力が必要であるということですね。

山岸

別の言い方をすると、相手の主張や反応も予測したうえで自己主張をしないと衝突や摩擦の連続になってしまいますから、独立を維持するためには積極的に他者とコミュニケーションをしないとイケない。

長谷川

独立独歩で生きるには他者との関わりを避けてはられない。たしかに研究などもそういう側面がありますね。

(長谷川真理子、山岸俊男『きずなと思いやりが日本をダメにする 最新進化学が解き明かす「心と社会」』集英社、2016年、232-236頁)

設問

ドイツ文化と日本文化の特徴を挙げ、それを比較しながら、相互協調性や独立性を2つの種類に分けることが適切か否かについて論じなさい。また、これからの日本社会において、どのような相互協調性や独立性が望ましいのか、それを達成するためにはどうすればよいのかについても論じなさい。必ず、「本文の内容をよく吟味・検討した上で」議論を進め、1200字以内で解答すること。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 フランス語学科

課題：小論文（1400 字）

時間：60 分

\*\*\*\*\*  
以下の文章を読んで、設問に答えなさい。

(1) 「棲み分け」という代替案

日本における進化論の受容は決して一筋縄ではいかなかったが、それは進化論が受容され始めた明治時代だけの話ではなかった。これまで見たように、日本での進化論は人間社会への示唆という点で大きな注目を集めたが、その多くはダーウィン自身の議論から逸脱したものであった。『種の起原』の翻訳が原著の出版から四十年後によりやく出版されたことや、正当な生物学者によって正面から論じられてこなかったことは、日本での進化論の受容がいかに政治や社会の側面に偏っていたのかを表している。

そうした中で、時代はぐっと現代に近づくが、ダーウィンに正面から喧嘩を売った生態学者が京都大学の今西錦司(1902-92)である。競争よりも共存の原理を解明しようとした今西を中心とする京都学派のアプローチは、争わない社会への洞察に満ちている。今西の生物学者としての業績は評価が分かれているが、彼の書き物が分野の垣根を越えて広い読者を得たという事実は、今西の展開したダーウィン批判がどこか日本人に受け入れられやすい要素を含んでいたからであろう。

今西はダーウィンらの進化論を象徴的に物語る「キリンの首はなぜ長いか」というくだんの問題に、自らのフィールド体験を踏まえて次のような批判を加えた。

.....食糧の乏しいときには、一インチでも二インチでも背の高いキリンが食物にありついて生きのこり、もう一頭の食物にありつけなかったほうのキリンは、生存競争の敗者となって、餓死してしまうというのであるが、抽象論としては、そういうことも起こり得ないとはいわない。しかし、こんなあほうなことが、はたして現実の自然のなかで、起こりうるだろうか。私の反論はいつでも、自然に密着したところから出発する。アフリカのサバンナでは、大きくて高いアカシアのような木は、なるほどポツンポツンとしか生えていない。しかし、一本きりというのではないのである。そうだとすれば、さっきの競争で敗れたキリンは、なにも餓死したりなどしなくても、動いて行って、どこかで自分の背丈にあった木の葉を食べればよいのである。

今西は従来の生物学が個々の生物の役割を過度に重視してきたことを批判し、異なる種が一つの「社会」として互いに距離をとり合うようになるプロセスに進化の本質を見た。その成果が、今西の提唱した「棲みわけ」論である。

今西の異論のポイントは、「集団」の解釈である。そもそも日本では、「集団」をスペンサ

一が重視した「個」の集まりというよりも、一つの有機的な「社会」として見ようとする傾向があった。この傾向は、生物学の議論を離れて政治に利用されるようになった進化論を、今西の手によって再び生態学の領域に回収するときにも見られた。

与えられた環境を変える可能性に希望を託すことができるのが人間である。現状を最良の自然選択の結果(=what we are)と見なす進化論的な見方を鵜呑みにすると、他にありうる可能性(=what we can do or be)への想像力が損なわれ、選択肢を広げる希望が閉ざされてしまう。特に現状肯定の発想は、特定の人々の暮らしぶりが「現状」に至った過程を等閑視させ、「他にありえた選択肢」を後景に追いやってしまう。適者生存の発想は、社会が人を選別し淘汰するという側面を強調するあまり、その逆、すなわち人が主体的に社会に働きかけて、変化を促していくという可能性をかき消してしまうのである。

今日の社会を、競争を勝ち抜いた「適者」の埋め尽くす世界と見るのか、それとも競争に負けた「不適者」にも、この世界を共につくっている仲間として積極的な価値を認めるのかでは視座が大きく異なる。後者の視点に立てば、適者もまた不適者と見なされる人々に頼っている面がはっきりと見えてくる。(2) 適／不適の基準は、人間の多様性を捉えるにはあまりにも一面的なのである。

### 多様性は適者生存を置き換えるか

「適者」が生き延びてこられたのは、多様な生き物がいたからだ。近年、これを人間社会に当てはめて、とりわけ女性やマイノリティの権利を擁護する観点から「多様性」という言葉が頻繁に使われるようになった。露骨な競争を想起させる「適者生存」よりも「多様性」の方が言葉の響きはよい。だが、(3) 多様性の賛美が、かえって格差を温存しているようなことはないだろうか。

多くの人にとっては、もはや記憶の彼方に遠のいているかもしれないが、東京オリンピック 2020 のテーマは「多様性と調和」であった。日本人のメダル獲得数に世論が一喜一憂する中、メダルを一つも持ち帰れなかった国が全体の半数以上だったという。オリンピックは「参加することに意義がある」と言われるが、その言葉のもとに、大事な視点が欠けてしまっている感覚を私はもっていた。それは「格差の多様性」、「見せかけの多様性」への視点である。どういうことか。

「プールがない国からきた競泳選手」として日本のマスコミをにぎわせたソロモン諸島出身のイロ氏をめぐるエピソードが象徴的であった。プールがないためにもっぱら海で練習を積んできた彼の最大の悩みはタイムの測定ができないことだったという。もっとも、マスコミでのイロ氏の発言には、オリンピックに参加できた喜びの言葉はあっても、競技環境の格差に対する不満のようなものは感じられなかった。マスコミが彼を取り上げたのは、イロ氏のように競争の勝ち負けとは別の価値を体現している選手に光を当てれば、メダル獲得レースに熱を上げる日本人に何らかのインパクトを与えられるという確信があったからだろう。だが、清々しい彼の態度は、オリンピックというグローバルな競争に潜む格差の厳しさをかえって露わにしたように私には思われた。「多様性の祭典」と謳われたオリンピックは、見方を変えると「格差の多様性」によっても組み立てられていたと言えるのではないか。

文化人類学の視点から進歩や開発の考え方に深い洞察を与えてきたクロード・レヴィ＝ス

トローズ（1908—2009）は著書『人種と歴史』で、科学的な視点から文化の序列を否定し、第二次世界大戦後のユネスコの思想的推進力になった文化相対主義の考え方に先鞭をつけた。この中でレヴィ＝ストロースが特に力を入れたのが、\*「見せかけの多様性」という考え方である。彼は、同じ時期に異なる場所で暮らしを営んでいる民族や人々の生活水準を「多様」と呼んでおきながら、そこに「遅れている／進んでいる」という単線的な発展概念を持ち込んで一つの発展モデルに回収してしまうことを、「見せかけの多様性」という言葉で批判した。彼は言う。

遠い時代のものであれ遠く離れた土地のものであれ、人類社会の示すさまざまな状態を、同じ起点から始まり同じ目的に収斂される唯一の発展の諸段階あるいは諸階梯と見なせば、多様性はただの見せかけだけのものになる。

それぞれ別の地域で見つかった石斧の技術的優劣をもとに、「劣ったものが優れたものに進化した」という生物学の見方をそのまま当てはめるのは危険であるとレヴィ＝ストロースは考えた。化石から変化を推論しうる生物とは異なり、文化の変化については、先後関係やそのメカニズムが分からない場合が多いからだ。

レヴィ＝ストロースの忠告から半世紀以上が経過した現在、「見せかけの多様性」は私たちの考え方を今も縛り続けている。たとえば一人当たり所得や GDP に基づいて国家の「発展」の度合いを定める習慣は今も支配的である。そうした視点から見ると、たとえば東南アジアの山奥で焼畑農業を営む人々は、「原始的」「遅れた」というレッテルを貼られ、同じ地域でより「近代的」「効率的」に畑を耕す人との比較で下位に序列づけられる。そして、途上国の「遅れた社会」を、対外援助を通して「開発」することが、いつしか国際社会の中心的な課題になったのである。

#### (4)「誰一人取り残さない」を批判する

人間社会に適用される適者生存論は、種全体のあり方を長いスパンで見ていたダーウィンの視野の広さを忘れ、個々人の生存適応能力に焦点を絞ってしまった。それは、ダーウィン自身が重視していた様々な依存関係を後景化し、クロボトキンが注目した相互扶助や生き物の社会性という考え方も置き去りにしたまま、グローバルな資本主義を説明しつつ正当化する最も分かりやすいロジックとなった。倒産と起業とが繰り返されるビジネスの世界を見れば、適者生存の理論は益々存在感を増しているかのようである。

その一方で、様々な集団間、個人間で広がる格差を問題視するようになった国際社会は、2015年にSDGs（持続可能な開発目標）を定めて、人類がこの地球で暮らし続けていくための達成目標を宣言した。これは先進国をも対象に「適者生存」が置き去りにしてきたものへの手当てを含んだ点で画期的な国際合意であった。経済・社会・環境に関する十七の目標と百六十九の詳細なターゲットを定めたSDGsは、その前文において持続可能な開発から「誰一人取り残さない」と謳っている。そして十番目の目標に「人や国の不平等をなくそう」を掲げた。

だが格差を正当化する思想を内蔵した開発の構造を変えない限り、「開発によって格差を

なくす」という目標が達成できるとは思われない。実際、資本主義社会の「発展」は、多くの脱落者と、それゆえの格差と貧困を生み出してきた。近年、不平等研究で世界的な注目を浴びたトマ・ピケティ(1971-)は、長期間の実証分析から、グローバルな不平等の拡大が偶発的な結果ではなく、資本主義に内在したメカニズムによって生み出されていることを明らかにした。競争を前提とした社会は、「取り残される人」が出てくるのが織り込み済みの社会であると言える。これを正当化する理論として本章では適者生存の思想を詳しく見てきた。取り残される人の存在を前提にしながら「誰一人取り残さない」と連呼するのは矛盾であると言えなくもない。

では、どうするか。発展途上国の実態を見てきた私は開発自体を放棄すべきとは考えていない。しかし、あくまで開発を進めるのならば、「取り残さない」と言う前に、何から取り残さないのかを問うべきではないか。考えなくてはならないのは、取り残されそうな人は、そうなる前にはどこに属していたかということであり、「取り残さない」ためにできることは、その人が帰属できる集団をさまざまな形で確保することである。集団や帰属についての議論は、「依存の想像力」を扱う第七章以降で行うこととし、次章では、経済的に豊かな人々が、どのような争いを経てその豊かさを手に入れたのか、豊かさを保障する所有権の制度はどのような弊害を生み出したかを見ていきたい。

さて、進化論が人間社会にもたらした新たな視点とは結局何であったのか。それは、生きる力の強い者と弱い者とは、そうなるのに科学的な理由があったと見る視点である。しかしこれは人間社会の実態にそぐわない見方であった。生物界では、特定の生き物が一定数以上に繁殖すると、その生存環境は有限であるために個体間の競争に敗れる者が出てくる。適者生存はこうした競争を科学的に説明する原理であった。本章で論じてみたのは、これを人間社会に当てはめた時に生じるズレである。

シンプルで普遍的と見なされた進化論の思想は、いったんは拒絶されたり、逆に都合よく政治利用されたりした。文化的土壌に基づく反応の違いは、同時に「開発／発展」が、一つの普遍的な原理に沿うものではなく、地域や時代の個性に色づけられていることを示している。本章の冒頭に取り上げたハリウッド映画「エンド・オブ・キングダム」は欧米先進国を標的にするテロリストらの計画から物語が始まった。しかし、そもそもなぜそこまで欧米を敵視する勢力がいるのかという角度から同じ物語を描けば、「正義」の所在は逆転する。一部の国や人々が生存競争で勝ち残る過程には、歴史の表舞台に名を残さない諸集団の犠牲が積み重ねられている。この映画の世界観が、歴史の総括を脇に置いて前だけを見ようとする SDGs の語りと似ていると感じるのは私だけであろうか。

出典：佐藤仁『争わない社会 「開かれた依存関係」をつくる』 NHK ブックス 2023 年 121～129 頁を、一部改訂。

- 1) 下線部 1 に関し、「棲み分け」は何の代替案ですか？説明しなさい。(50 字)
  
- 2) 下線部 2 に関し、適／不適の基準は一面的と著者は批判しています。適／不適の基準について説明したうえで、なぜ一面的なのか、説明しなさい。(100 字)
  
- 3) 下線部 3 に関し、なぜ多様性の賛美がかえって格差を温存することになるのかを説明しなさい。(100 字)
  
- 4) 下線部 4 に関し、「誰一人取り残さない」がどのようなスローガンなのかを述べたうえで、著者がなぜそれを批判するのかを説明しなさい。(250 字)
  
- 5) 下線部\*の「みせかけの多様性」について、身近な例を踏まえて論じなさい。(900 字)

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 イスパニア語学科

課題：筆記による表現能力、読解力と要約力

時間：60分

\*\*\*\*\*

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

他人にあれこれ①サシズされるのはいやだ。自分のことは自分で決めたい。自由に決定させてくれ。だが決定とは選択肢を最後の一つにまで絞り込み、他の可能性をすべて捨て去ることだ。いかに豊かな選択肢のなかから選び取るうとも、②ジユクリヨの末に判断したものであるうとも、それは自らを身動きの取れない状況に置くという、ひどく拘束的な行為である。であれば自由の特徴とは、拘束する者とされる者との一致にほかならない。

自分のことを自分で決めさせろという③キキユウは、自分のことは自分で決められるはずだという期待に基づいている。この期待はそれが自分に可能だという、希望の④ハツロの一種である。

こうした意思を「自分」でなく、「自分たち」に適用したとき、それは民主制を求める思考の基盤となる。伝統や権威、宗教や君主に任せるのではなく、自分たちで自分たちのことを決めてみせよう。どうせ決定は「A」を生み出すのならば、その決定主体は自分たちにしてみせよう。民主制には多様な制度形態があれども、その基本理念とは、およそこのようなものである。

民主制の歴史を⑤ホウカツ的に調べ上げた政治学者ジョン・キーンは、それを「この発明は今日の私たちにまで及ぶ、ひとつの希望的観測の力強い表れである。古代ギリシア人はそれをdemokratiaと呼んだ」と言い表した。

だが、自分で決めることと自分たちで決めることには大きな違いがある。一と多の違いだ。自分だけのではなく、自分たちの決定を行うためには、異なる多数の意思を一つに集約せねばならない。具体的にどう集約するかというと、多数決がよく使われる。

むろん単に意思を集約してもしようがない。まともな情報がないなかで、また深く考えずに投票するのでは、自分たちでうまく決められていることにはならない。だからこそ政府は情報を公開すべきだし、表現の自由は大切だし、知ろうとすることやジユクリヨすることも大事なわけだ。

だがこれらの諸条件がすべて満たされたとして、多数決は人々の意思を適切に集約できるのだろうか。二〇〇〇年のアメリカ大統領選挙を例に挙げよう。当初の世論調査では、民主党の候補ゴアが共和党の候補ブッシュに勝っていた。だが途中で⑥ホウマツ候補のラルフ・ネーダーが立候補を表明、最終的に支持層が重なるゴアの票を喰い、ブッシュが⑦ギョフの利を得て当選することとなった。多数決は「票の割れ」にひどく弱いわけだ。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 イスパニア語学科

多数決という語の（a）字面を見ると、（B）いかにも多数派に有利そうだが、必ずしもそう働くわけではない。とはいえそれは少数意見を汲み取る方式でもない。

おそらく多くの人は、多数決に対するそのような違和感を、どこかで感じたことがあるのではないか。その違和感を論理立てた言葉で説明すること。科学的な分析の（b）組上に載せてみることに。それができれば、より優れた意思集約の方式を作れるはずである。またそうした方式づくりの可能性を⑧ツイキウウすることで、何が不可能なのかも見えてくるだろう。

（中略）

ではいったい私たちは多数決の何を知っているのだろうか。それはいつ、何を対象として、何のために使われるべきものなのか。利用上の注意点は何か。どんなときに他の手法——例えばボルダール——に取って代わられるべきなのか。多数決をするとしても、重要な物事——例えば憲法改正——を決めるときには、何%の賛成が必要とされるべきなのか。（中略）

そして、これらの「べき論」は、趣味や嗜好ではなく、論拠や証拠に基づき展開される必要がある。一定の耐震基準を満たさない建築物は、いかにそれが趣味や嗜好に⑨適っていたとしても、あるいは伝統や宗教が⑩是としようともし、安全性の面から棄却されねばならないように。それは何よりもまずそこに居る人間のためである。

社会制度は天や自然から与えられるものではなく、人間が作るものだ。それはいわば最初から不自然なもので、情念より理性を優先して設計にあたらねばならない。（中略）（C）伝統や宗教による支配——それはときに伝統や宗教の名のもとに人が人を服従させることだ——を避けたいならば、自分たちのことを自分たちで決めたいならば、自分たちでそれが可能となる社会制度を作り上げねばならない。

（坂井豊喜「多数決を疑う 社会的選択理論とは何か」岩波書店、2015、i-viページ）

設問一 傍線部①～⑩について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをカタカナで書きなさい。

設問二 【A】に入る語を本文中から抜き出して書きなさい。

設問三 波線部（a）のここでの意味を20字以内で説明しなさい。

設問四 波線部（b）の意味を30字以内で説明しなさい。

設問五 二重傍線部（B）が言わんとしていることを、本文の記述に基づいて100字以内で述べなさい。

設問六 二重傍線部（C）の仮定について、本文の記述を踏まえた上で、あなたの考えを350～400字

で述べなさい。

（設問一から設問六までの解答は、配分を考慮した上で2枚の原稿用紙にすべて記入すること）

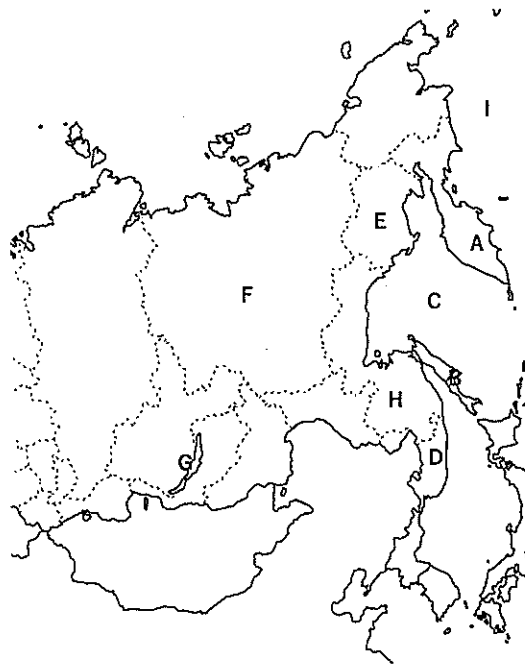
入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ロシア語学科

課題：ロシア・ソ連についての基礎的知識を問う設問を含む小論文  
時間：90分

\*\*\*\*\*

1. 地図を見て、以下の質問に答えなさい。

1) 地図上の A には半島の名称、C と I には海域、G には湖の名称が入る。それぞれ答えなさい。



A		C	
G		I	

2) 地図上の F は、ロシア連邦を構成する連邦構成主体の一つ（サハ共和国）である。この地域で産出される地下資源としてよく知られているものは何か。空欄に書きなさい。

3) 地図上の H と D は、それぞれロシア連邦を構成する連邦構成主体（地方）である。2012 年にアジア太平洋経済協力（APEC）の会合が開催された都市が位置するのはどちらか。記号で答えなさい。

その都市の名称を空欄に書きなさい。



入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ロシア語学科

3. 次の各文は、ロシア史上の著名な人物について述べたものである。文を読んで後の問いに答えなさい。

- 1) ( A ) は、ソ連時代のラーゲリ（強制収容所）を描いた『イヴァン・デニーソヴィッチの1日』や『収容所群島』などで知られる20世紀の文豪である。
- 2) ( B ) は、モスクワ大学の創立者である。18世紀に分子と原子の区別を主張したことで知られる。
- 3) ( C ) は、伊勢の商人だったが、船で江戸へ向かう途中に遭難した。博物学者の( D ) に伴われてロシアの首都に行き、( E ) に謁見した。その後日本に帰国した。
- 4) ( F ) は、南スラヴ人へギリシャ正教を布教する目的でグラゴール文字を作った。後にその文字からスラヴ世界で広く用いられる文字が生まれた。
- 5) ( G ) は、( H ) の死後ソ連共産党第一書記（書記長）となった。( I ) 批判を行い、国内外に衝撃を与えた。米国の( J ) 大統領と並ぶキューバ危機の当事者としても知られている。
- 6) ( K ) は、近代ロシア語とロシア文学の発展に大きく寄与した詩人・作家で、代表作には『青銅の騎士』や『オネーギン』などがある。
- 7) ( L ) は、( M ) 書記長の死去により、1984年にソ連共産党書記長に就任した。しかし着任当時から病弱で1年余りで病死した。
- 8) ( N ) は、西欧ロマン派の特徴とロシアの民族的伝統を融合した曲作りを目指し、『くるみ割り人形』等で知られる作曲家である。

問い： ( A ) ～ ( N ) に入るべき人名を記入しなさい。

A		B	
C		D	
E		F	
G		H	
I		J	
K		L	
M		N	

4. 「国際社会における日本の役割」と題して800字以内で小論文を書きなさい。（解答用紙は別紙の原稿用紙を使用すること。）

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 外国語学部 ポルトガル語学科

課題：ポルトガル語圏に関する基礎的知識を問う設問を含む小論文  
時間：60分

\*\*\*\*\*

※ 解答はすべて解答用紙に書くこと。また解答用紙には、設問の番号（例：1.（2）など）をきちんと示すこと。

1. 以下の問いに答えなさい。

（1）ポルトガル語圏（＝ポルトガル語を公用語とする国）に属する 9 つの国をすべて挙げなさい。

（2）（1）で挙げた国のうち2つを選び、その国の特徴を表す①自然や地理、②文化、③日本との関係について、それぞれの国につき 150 字以内でまとめなさい。

2. ポルトガル語圏に関係する次の言葉について 100 字程度で説明しなさい。

- （1）BRICS
- （2）ポルトガル語諸国共同体（CPLP）
- （3）カーネーション革命
- （4）ペドロ・アルバレス・カブラル
- （5）南南協力

3. あなたが興味を持っているポルトガル語圏に関するテーマは何か。仮にそのテーマでレポートを書くとしたらどのような内容で、またどのようにレポートを組み立てていくことになるだろうか。具体的にあなたの構想を説明しなさい。選ぶテーマはポルトガル語圏全体に関わるものでも、ポルトガル語圏に属する一つの国に関わるものでもよい（400 字程度）。

入試種別： 推薦入学試験（公募制）  
学部学科： 総合グローバル学部 総合グローバル学科

課題：小論文（800字）

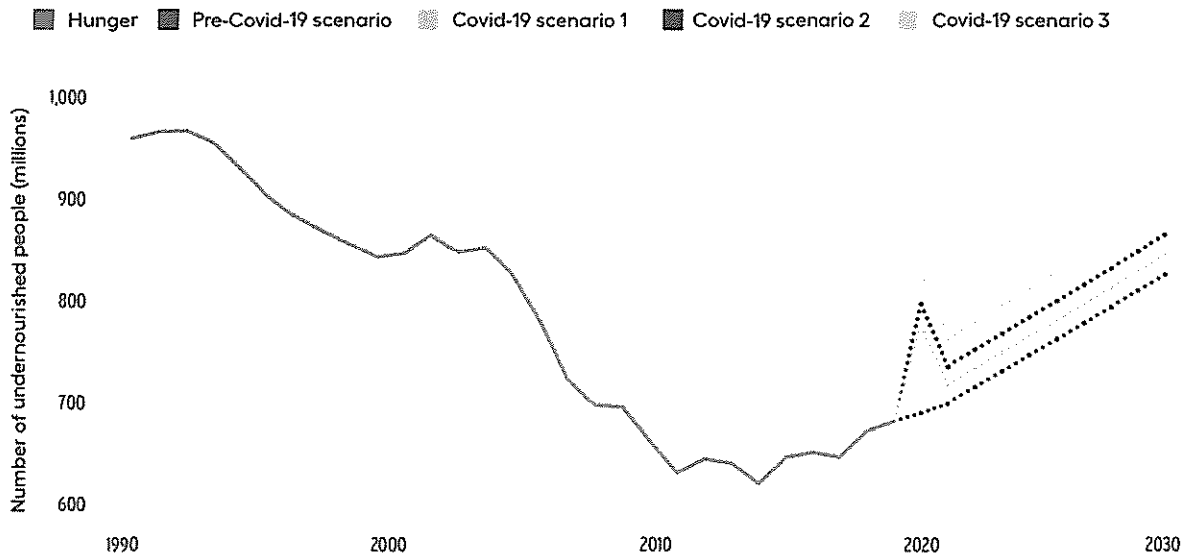
時間：60分

\*\*\*\*\*  
以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

2030年までの国際的な目標とも言える『持続可能な開発目標』（SDGs）の目標2において、「飢餓に終止符を打つ」とある。しかしながら、国連開発計画（UNDP）が発表した2020年度人間開発報告書（Human Development Report 2020：英語版）の図2.5（57頁より引用）では、2014年以降、世界の飢餓人口は上昇をはじめ、このまま2030年まで上昇の一途を辿るように予想されている。報告書の説明によると、以下のような記述となっている。

「飢餓に苦しむ人々（栄養不足の人々）の数は、2014年の最低値6億2800万人から増加している。2019年には6億8,800万人となり、わずか5年間で6,000万人増加した。2020年の推計（新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を含む）は7億8,000万人から8億2,900万人である（図2.5）。2030年には9億人が栄養不足に陥る可能性がある。」（出題者訳）

Figure 2.5 Hunger is on the rise



Source: Adapted from FAO and others (2020), using data for 1991–2001 from FAO (2020b) and UNDESA (2015).

（出典）UNDP（United Nations Development Programme）. 2020. *Human Development Report 2020 The Next frontier: Human Development and the Anthropocene*. New York. P.57.

【問い】

1) 2014年以降、飢餓に苦しむ人々の数が上昇の一途を辿ると予想されているが、その理由は何か。考えられるものをできるだけ多くあげて説明しなさい。その際に、どのような地域のどのような人々が飢餓で苦しむ可能性があるのかも具体的に言及すること。

2) SDGsの目標で「飢餓に終止符を打つ」としながらも、実際は逆の方向に推移していることに対して、どのような具体的対応が必要か、あなたの考えを論理的に述べなさい。